明治安田生活福祉研究所

2013年3月18日

第７回「結婚・出産に関する調査」結果概要

株式会社明治安田生活福祉研究所（社長 服部秀昭）は、2013 年２月に、全国の 20 歳～49 歳の男女 3,616 名を対象に、結婚と出産をテーマとする調査を実施しました。

結婚に対する考え方、恋愛や婚活の実態、結婚生活の理想と現実、子どもを持つことに対する考えや子育ての実態などについて、この調査で明らかになった最新の状況をご紹介します。

＜ 主 な 内 容 ＞

<ページ>

◆ 結婚への道遠し ―― 30 代未婚男性の３割が女性との交際経験なし	4
◆ 未婚女性が結婚相手に求める最低年収は現実的 ――「500 万円以上」は３割	6
◆ 婚活は有効 ―― 婚活した既婚者の４割以上が「実際の結婚につながった」	9
◆ 10 組に１組が妊娠で結婚を決断。女性の「これ以上待てない」で結婚に踏み切った男性も	12
◆ 配偶者と知り合ったキッカケは「同じ職場」「友人の紹介」「学生時代」	14
◆ 結婚とは？ ――「我慢」の男性、「忍耐」の女性	17
◆ 40 代の４人に１人が離婚を意識 ―― 言葉の暴力、自分勝手、育児に非協力で離婚の危機が	24
◆ 30 代以降に親になった人の９割が「もっと早く子どもを持てばよかった」	26
◆ 夫の４人中３人が「自分は子育てに積極的」。妻も３人中２人が夫を「積極的」と評価	30
◆ 大学卒業までにかかる教育費総額 ―― 予想は平均 1,926 万円	35
◆ 妻の理想 ―― 子どもが入学前は「専業主婦」、小学校に上がったら「できるだけ外で働きたい」	38

ご照会先	㈱明治安田生活福祉研究所 生活設計研究部 森・高田・横田・橋本	電 話：03(3283)9297　FAX：03(3201)7837 Eﾒｰﾙ：rbj@myilw.co.jp

＜ 調査の概要 ＞

（1）調査対象： 全国の 20 歳以上 49 歳以下の男女

（2）調査方法： WEB アンケート調査（株式会社マクロミルの登録モニター対象）

（3）調査時期： 2013 年２月６日～２月９日

（4）回 収 数： 3,616 人

（5）サンプルの属性　〔上段：人数（人）、下段：全回答者に対する割合（%）〕

		20～24 歳		25～29 歳		30～34 歳		35～39 歳		40～44 歳		45～49 歳		計
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
未婚		103	103	155	155	155	155	155	155	52	52	52	52	1,344
		2.8	*2.8*	*4.3*	*4.3*	*4.3*	*4.3*	*4.3*	*4.3*	*1.4*	*1.4*	*1.4*	*1.4*	*37.2*
既婚	子どもなし	25	79	103	103	103	103	103	103	52	52	52	52	930
		0.7	*2.2*	*2.8*	*2.8*	*2.8*	*2.8*	*2.8*	*2.8*	*1.4*	*1.4*	*1.4*	*1.4*	*25.7*
	子どもあり	52	52	103	103	155	155	155	155	103	103	103	103	1,342
		1.4	*1.4*	*2.8*	*2.8*	*4.3*	*4.3*	*4.3*	*4.3*	*2.8*	*2.8*	*2.8*	*2.8*	*37.1*
（既婚計）		77	131	206	206	258	258	258	258	155	155	155	155	2,272
		2.1	*3.6*	*5.7*	*5.7*	*7.1*	*7.1*	*7.1*	*7.1*	*4.3*	*4.3*	*4.3*	*4.3*	*62.8*
計		180	234	361	361	413	413	413	413	207	207	207	207	3,616
		5.0	*6.5*	*10.0*	*10.0*	*11.4*	*11.4*	*11.4*	*11.4*	*5.7*	*5.7*	*5.7*	*5.7*	*100.0*

（6）サンプル数について

この調査では、上記の各属性ごとに相当数のサンプルを収集して分析を行なうことを目的としています。そのため、当資料では人口比等による補正は行なっておりません。

＜ 目 次 ＞

１．恋愛 …… P. 4
（１）異性との交際経験　（２）恋人との出会い方
（３）恋人との距離と交際

２．20 代・30 代未婚者の結婚に対する気持ち …… P. 6
（１）結婚に対する考え　（２）いま独身でいる理由
（３）結婚相手に必要な最低年収

３．婚活経験 …… P. 9
（１）未婚男女の婚活経験　（２）既婚者の婚活経験

４．結婚に踏み切るために必要だと思うもの、結婚を決断した理由 …… P. 12
（１）独身者が「結婚に踏み切るために必要だ」と思う自分自身の周りの変化
（２）既婚者が結婚を決断した一番のキッカケ
（３）結婚した年齢別に見る「結婚を決断した一番のキッカケ」

５．結婚相手との出会い方の“理想”と“現実” …… P. 14
（１）独身者が結婚相手と知り合うキッカケとして期待するもの
（２）既婚者が結婚相手と知り合ったキッカケ
（３）独身者が知り合うキッカケとして期待するものと実際のギャップ

６．あなたにとって「結婚」とは …… P. 17
（１）「結婚」に対するイメージの男女の違い
（２）「結婚」に対するイメージの未婚・既婚での違い

７．結婚生活の理想と現実 …… P. 19
（１）結婚してよかったか　（２）結婚してよかったと思う理由
（３）結婚してよかったと思わない理由

８．現在の暮らしの満足度、配偶者に望むこと …… P. 22
（１）現在の暮らしの満足度　（２）配偶者に望むこと

９．離婚 …… P. 24
（１）離婚を考えることがあるか　（２）離婚を考える理由
（３）離婚の危機の要因

10.「子どもを持つこと」への意識 …… P. 26
（１）子どもが欲しいか　（２）“妊活”しているか

11. 子どもの保育と子育てサポート …… P. 30
（１）保育サービス　（２）子育てへの参加、サポート

12. 子どもと教育 …… P. 35
（１）自分の子どもに望む学歴　（２）小学校から大学卒業までの教育費
（３）教育資金の準備

13. 女性のライフステージにおける理想の働き方 …… P. 38

１．恋愛

○ 結婚への道遠し ―― 30 代未婚男性の３割が女性との交際経験なし
○ 恋人との出会いの中心は、「学生時代のサークルなど」「友人の紹介」「職場」
○ カップルの２割が遠距離恋愛。遠距離でも３組中２組が月１回以上デート

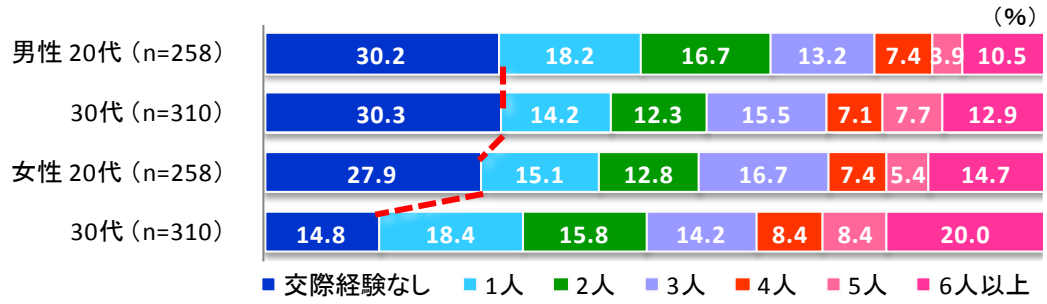
（１）異性との交際経験

未婚男性は 20 代･30 代とも、３割に異性との交際経験がありません。20 代から 30 代になると、交際した人数は増えていきますが、未婚者に占める恋愛未経験者の割合は変化していない点が注目されます。

一方、女性の場合、20 代では３割弱が交際未経験ですが、30 代では半減しています。

交際した人数は相対的に女性のほうが多めです。「３人以上」と回答した割合は、20 代の男性が 34.9%なのに対し、20 代女性は 44.2%でした。

図表 1-1　異性との交際経験（20・30 代の未婚者）

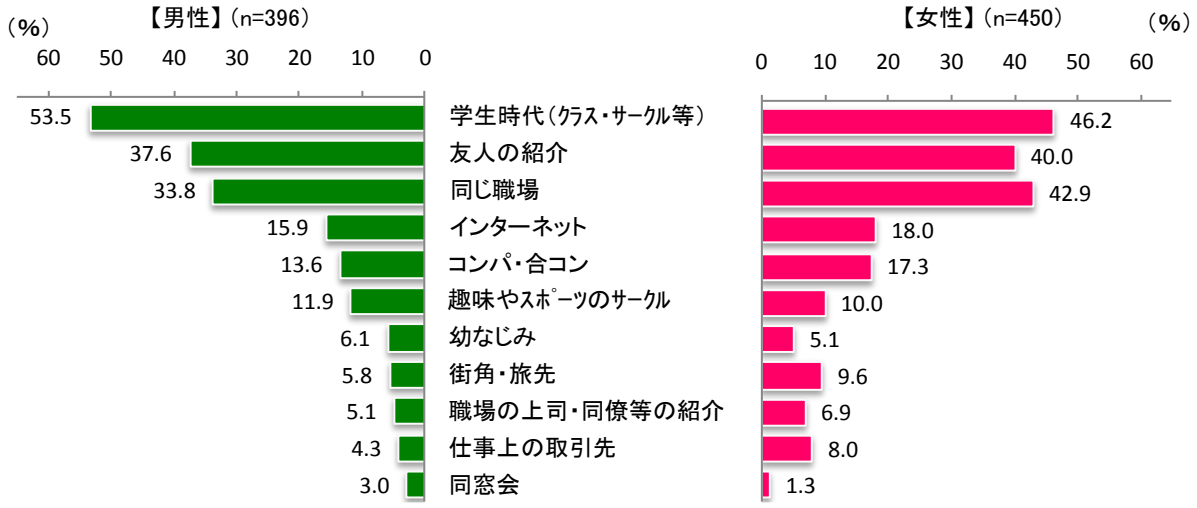


（２）恋人との出会い方

交際経験がある 20 代・30 代に、恋人との出会い方を尋ねたところ、男女とも「学生時代（クラス・サークル等）」がトップ。「友人の紹介」「同じ職場」までの３つが主な出会い方といえます。

男女の差に着目すると、男性は「学生時代」が、女性は「友人の紹介」「同じ職場」が相対的に高くなっています。「同じ職場」の男女差が大きい（女性 42.9%、男性 33.8%）点は、男性としてはとても気になるところです。

図表 1-2　恋人との出会い方（異性との交際経験のある 20・30 代の未婚者。複数回答）



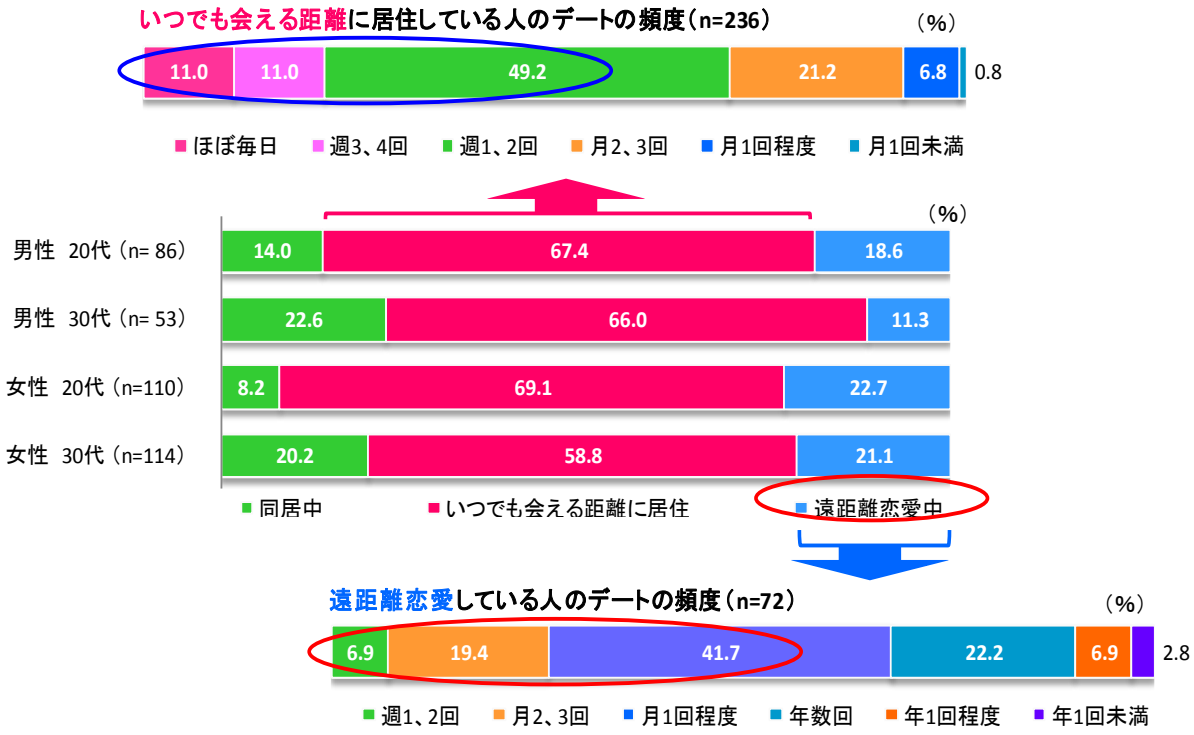
（３）恋人との距離と交際

恋人のいる 20 代の１割前後、30 代の約２割が同棲中です。

一方、「遠距離恋愛中」と回答した割合は、男性は 20 代 18.6%、30 代 11.3%。女性はいずれも 20%を超えています。男女差がやや気になるところで、女性は「遠距離」と感じていても、男性側はそうは思っていないカップルもいるのかもしれません。

「いつでも会える距離」に住んでいるカップルの場合、約７割が週１回以上会っています。また、遠距離恋愛のカップルでも３組中２組が、月に１回はデートをしているようです。

図表 1-3　恋人との距離とデート頻度（恋人がいる未婚者）



２．20 代・30 代未婚者の結婚に対する気持ち

○ 20 代前半の未婚男女の８割が「結婚したい」、30 代後半は４割近くが「結婚しない」
　―― 結婚に前向きな 20 代後半の８割が、「30 歳までには結婚したい」
○ 30 代未婚男性の３人に１人、女性の２人に１人が「結婚したいと思える相手がいない」
○ 未婚女性が結婚相手に求める最低年収は現実的 ―― 「500 万円以上」は３割

（１）結婚に対する考え

① 結婚へのいまの気持ち

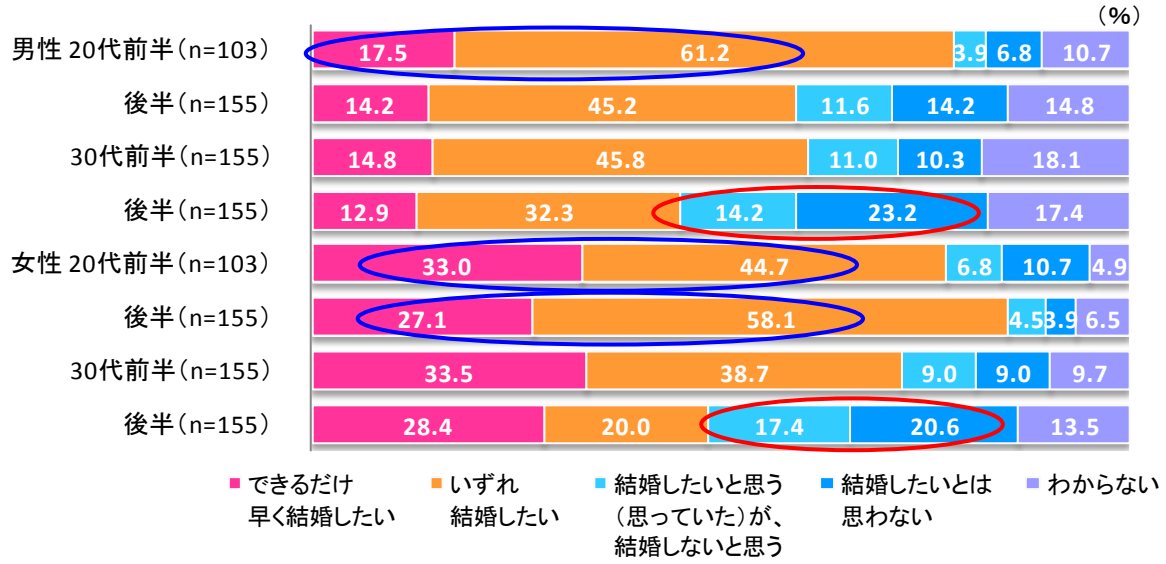
「できるだけ早く結婚したい」と望む人の割合は、各年齢層とも女性が男性のほぼ倍です。

「いずれ結婚したい」を加えた結婚“前向き派”は、20 代前半では男女とも８割近くにのぼり、女性の場合、結婚をより身近に感じると思われる 20 代後半でピーク（85.2%）に達します。

年齢層の上昇とともに“前向き派”の割合は下がりますが、“前向き派”が結婚していくことも要因の一つです。そのため、30 代の未婚率が高い男性では、20 代後半と 30 代前半の回答に目立った差が見られませんでした。

30 代後半では、男女とも未婚者の４割弱が「結婚しないと思う」あるいは「結婚したいとは思わない」と、結婚に後ろ向きな回答をしています。

図表 2-1　未婚者の結婚に対する今の気持ち

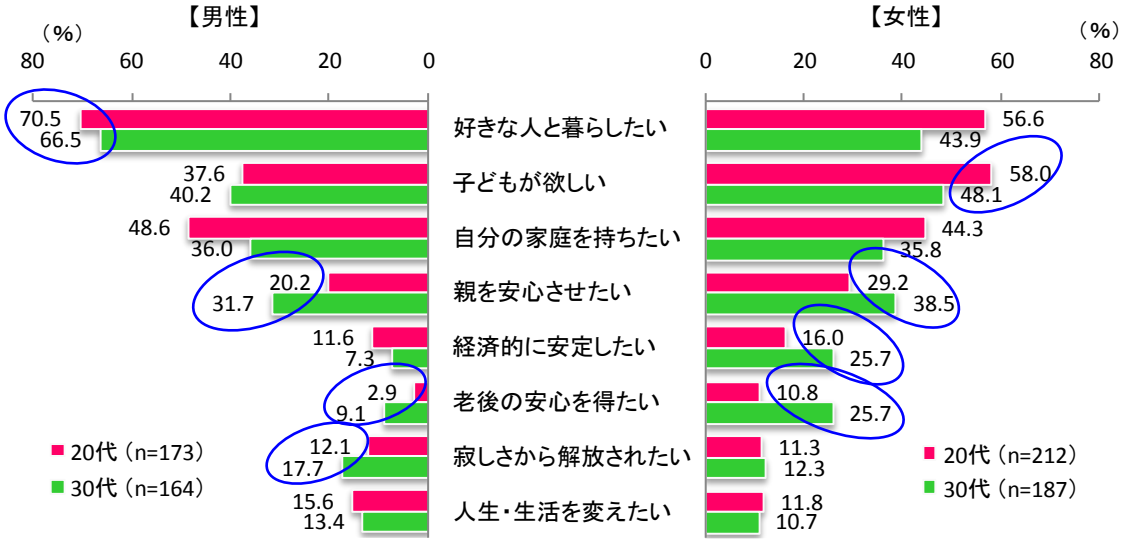


② 結婚したいと思う理由

“前向き派”が結婚したいと思う理由は 20 代・30 代とも、男性は「好きな人と暮らしたい」、女性は「子どもが欲しい」がトップです。

年齢による変化も見られます。30 代になると、「親を安心させたい」や「老後の安心を得たい」を挙げる割合が男女とも高まります。また、男性では「寂しさから解放されたい」、女性では「経済的に安定したい」が増える点に本音が垣間見られます。

図表 2-2　結婚したいと思う理由（「できるだけ早く結婚したい」「いずれ結婚したい」と回答した人。３つ以内）



③ 結婚したいと思う時期

結婚“前向き派”に「何歳頃に結婚したいか」を尋ねました。

20 代には「30 歳」を節目と考える人が多いようで、男性の場合 20 代前半の３割、後半の４割、女性では 20 代後半の３割が「30 歳」と回答しています（図表 2-3）。20 代前半の女性にとっては、「25 歳」も大きな節目になっているようです。

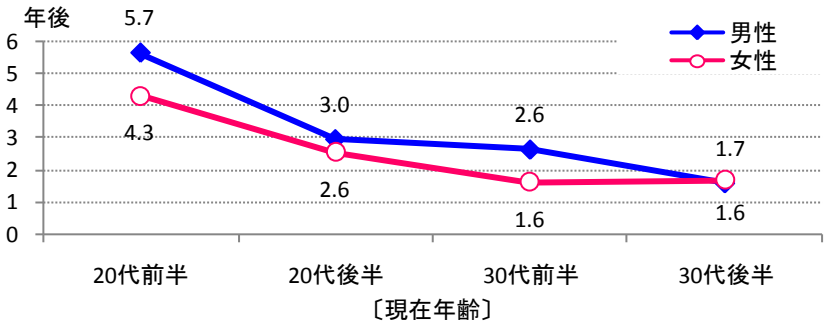
男女とも結婚“前向き派”は、20 代前半では９割以上、20 代後半でも８割前後が「30 歳までには結婚したい」と考えており、晩婚を望んでいる 20 代は少ないことがわかりました。

図表 2-3　結婚を希望する年齢（「できるだけ早く結婚したい」「いずれ結婚したい」と回答した人）　（%）

	現在年齢	結婚を希望する年齢								
		24 歳以下	**25 歳**	26 歳	27 歳	28 歳	29 歳	**30 歳**	31 歳以上	計
男性	20～24 歳（n= 62）	1.6	**17.7**	8.1	11.3	21.0	3.2	**29.0**	8.1	100.0
	25～29 歳（n= 67）	—	**0.0**	3.0	4.5	19.4	7.5	**40.3**	25.4	100.0
女性	20～24 歳（n= 65）	13.8	**29.2**	23.1	12.3	9.2	0.0	**9.2**	3.1	100.0
	25～29 歳（n=108）	—	**1.9**	4.6	3.7	32.4	8.3	**31.5**	17.6	100.0

また、結婚したい年齢と現年齢との差（何年後に結婚したいのか）の平均が図表 2-4 です。30 代になると、次に来る５歳刻みの節目（35 歳、40 歳）を意識した回答が多くなり、したがって平均は２年前後となっています。

図表 2-4　結婚を希望する時期 —— 何年後か（同上）

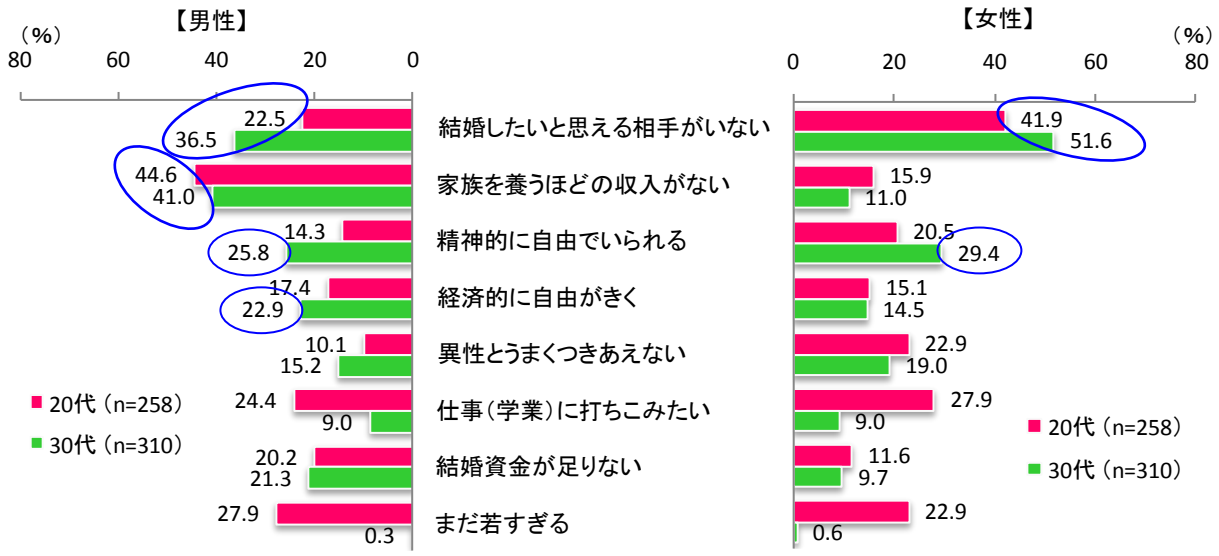


（２）いま独身でいる理由

未婚の 20 代・30 代に、いま独身でいる理由を尋ねたところ、男性は「家族を養うほどの収入がない」(20 代 44.6%、30 代 41.0%)、女性は「結婚したいと思える相手がいない」(20 代 41.9%、30 代 51.6%) が最多です。

20 代から 30 代になると、男女とも「結婚したいと思える相手がいない」が増えており、出会いの機会の不足、男女の相性のアンマッチなどが結婚を遠ざけている面がありそうです。さらに、男女とも「精神的に自由でいられる」、男性では「経済的に自由がきく」が高まっており、自由な独身生活からの決別も、ひとつのハードルと言えそうです。

図表 2-5　独身でいる理由（回答は３つ以内）

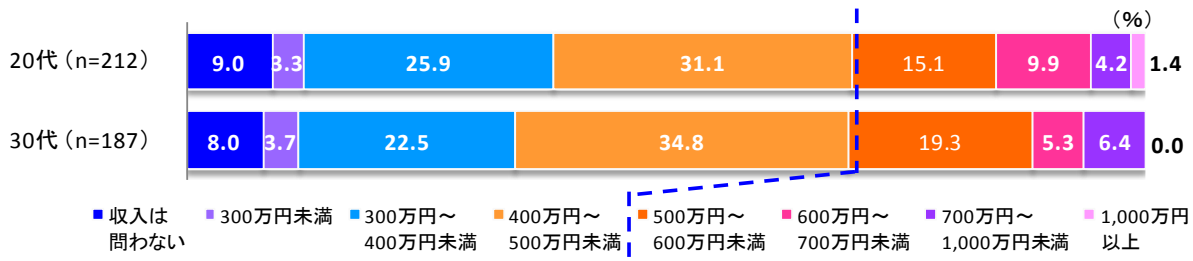


（３）結婚相手に必要な最低年収

未婚女性が結婚相手に求める最低年収は図表 2-6 のとおりです。「収入は問わない」人も含めると、年収「500 万円未満」で７割近くに達します。

男性サラリーマンの平均年収は、20 代前半 262 万円、同後半 367 万円、30 代前半 434 万円、同後半 498 万円 (国税庁「平成 23 年分民間給与実態統計調査」)。女性が考える年収の最低ラインは、かなり現実的な水準と言えそうです。

図表 2-6　未婚女性が結婚相手に求める最低年収



３．婚活経験

○ 婚活経験のトップ３は「合コン」「友人に紹介をお願い」「婚活パーティー」
○ 30 代の婚活しない理由、最多は「結婚に興味がないから」
○ 婚活は有効 —— 婚活した既婚者の４割以上が「婚活が実際の結婚につながった」

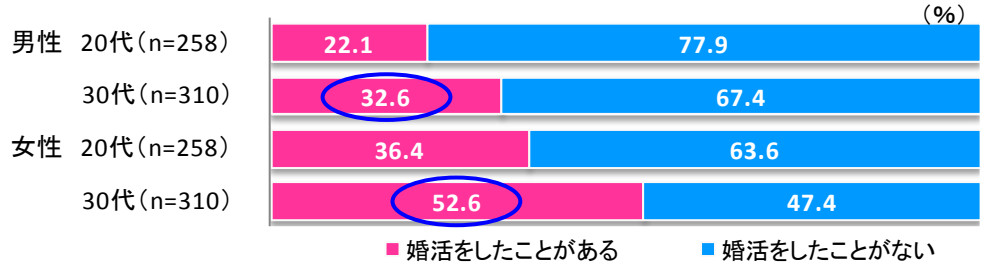
（１）未婚男女の婚活経験

① 婚活経験

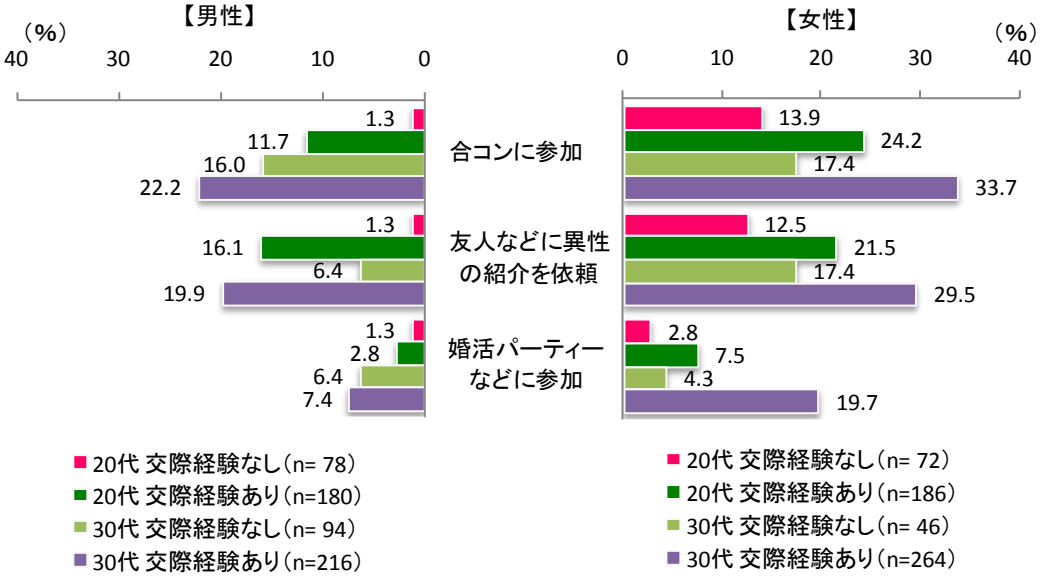
結婚のために利用したり行なったりしたこと（これを「婚活」と呼びます）があるかを尋ねたところ、30 代では男性の３人に１人、女性の半数強が経験が「ある」と回答しました（図表 3-1）。

婚活の内容として挙げられた上位３つは「合コンに参加」「友人などに異性の紹介を依頼」「婚活パーティーなどに参加」（図表 3-2）。異性との交際経験のある人とない人では、どの項目も経験率に大きな差が見られました（もちろん、この婚活で交際相手を得た人もいるでしょうが）。

図表 3-1　未婚男女の婚活経験



図表 3-2　経験した婚活の内容（未婚者。分母には婚活未経験者を含む。複数回答）



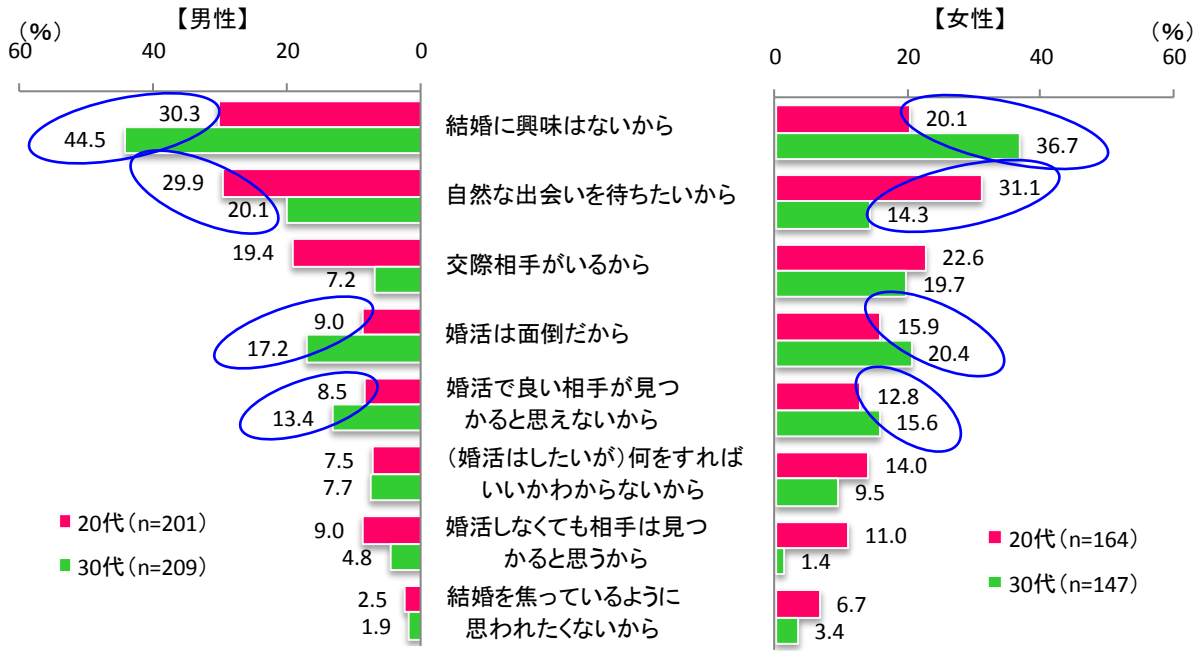
② 婚活をしない理由

婚活しない理由には、20 代と 30 代に大きな違いが見られました。男女とも「結婚に興味はないから」が 30 代で急増し、突出した回答になっています（30 代男性 44.5%、同女性 36.7%）。逆に「自然な出会いを待ちたいから」は 30 代で大きく低下しています（男性：20 代 29.9%→30 代 20.1%、女性：31.1%→14.3%）。特に女性では、“20 代の頃は自然な出会いを（漠然と）待っ

ていたが、30 歳を過ぎて結婚そのものに興味が薄れた”という変化をたどるケースが想定されます。

ほかに 20 代から 30 代への特徴的な変化を挙げると、「婚活は面倒だから」（男性：20 代 9.0%→30 代 17.2%、女性：15.9%→20.4%）、「婚活で良い相手が見つかるとは思えないから」（男性：20 代 8.5%→30 代 13.4%、女性：12.8%→15.6%）といった婚活に背を向ける人の割合が高まっています。

図表 3-3　婚活をしない理由（婚活経験のない未婚者。複数回答）



（２）既婚者の婚活経験

① 婚活経験（図表 3-4）

既婚者の半数近くに婚活経験があり（図表は割愛）、その内容は「友人などに異性の紹介を依頼」と「合コンに参加」が中心です。

全体としては少数派ながら、40 代になると「お見合い」「婚活パーティー」「親・親戚・上司などに紹介を依頼」「結婚相談所や結婚紹介サービス」を経験した人が増えてきます。特に 40 代の既婚女性の７人に１人（13.8%）がお見合いを経験しています。

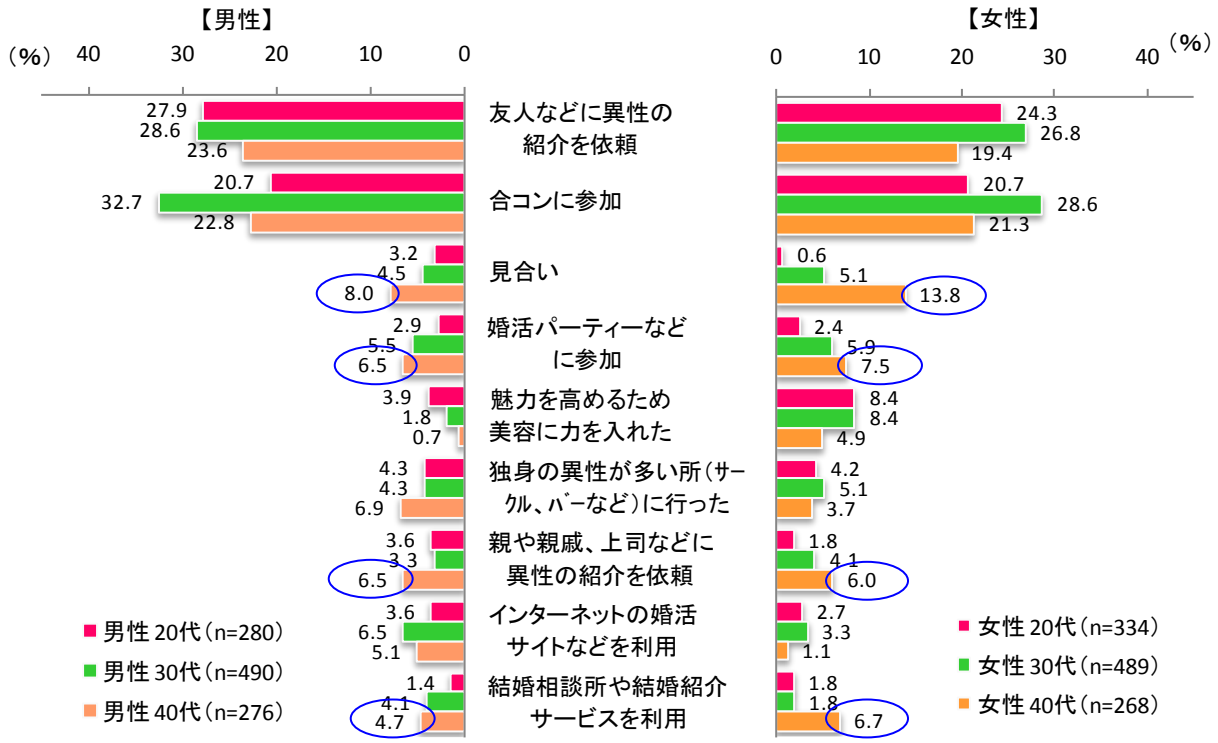
② 婚活を始めたキッカケ（図表 3-5）

婚活経験のある既婚者が婚活を始めたキッカケは、男女とも「結婚する年齢を意識したから」がトップ。20 代も含めたどの年齢層でも、結婚年齢を意識して婚活を始めた点が注目されます。男女とも 40 代になると親や家族などに勧められて始めた人が増えますが、特に女性の場合は顕著です。

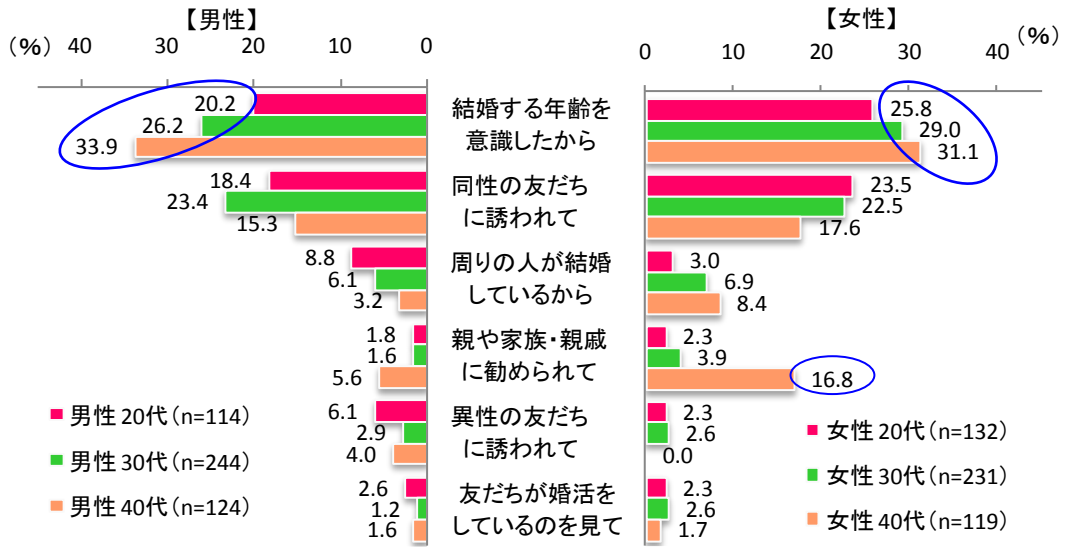
③ 婚活と結婚の関係（図表 3-6）

婚活経験のある既婚者の４人に１人（男性 26.8%、女性 24.7%）が、婚活で出会った人と結婚しています。さらに、「婚活で出会った人ではないが、結婚につながった」と回答した人も含めると、婚活経験のある４割以上の人が、婚活が実際の結婚に何らかの効果をもたらしたと認識していることがわかりました。

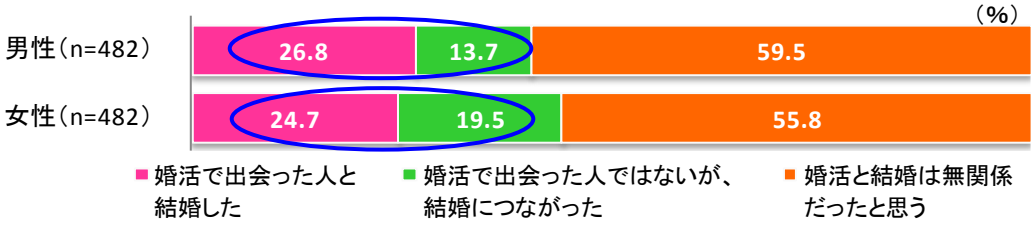
図表 3-4　既婚者が経験した婚活の内容（分母には婚活未経験者を含む。複数回答）



図表 3-5　婚活を最初に始めたときの一番のキッカケ（婚活経験のある既婚者）



図表 3-6　婚活は現実の結婚につながったか（婚活経験のある既婚者）



４．結婚に踏み切るために必要だと思うもの、結婚を決断した理由

○ 結婚に必要だと思うもの ―― 独身者の７割が「結婚生活に必要な収入や蓄え」。
　しかし、収入アップがキッカケで結婚したケースはわずか
○ 10 組に１組が妊娠で結婚を決断
○ 女性の「これ以上待てない」の一言で結婚に踏み切った男性も

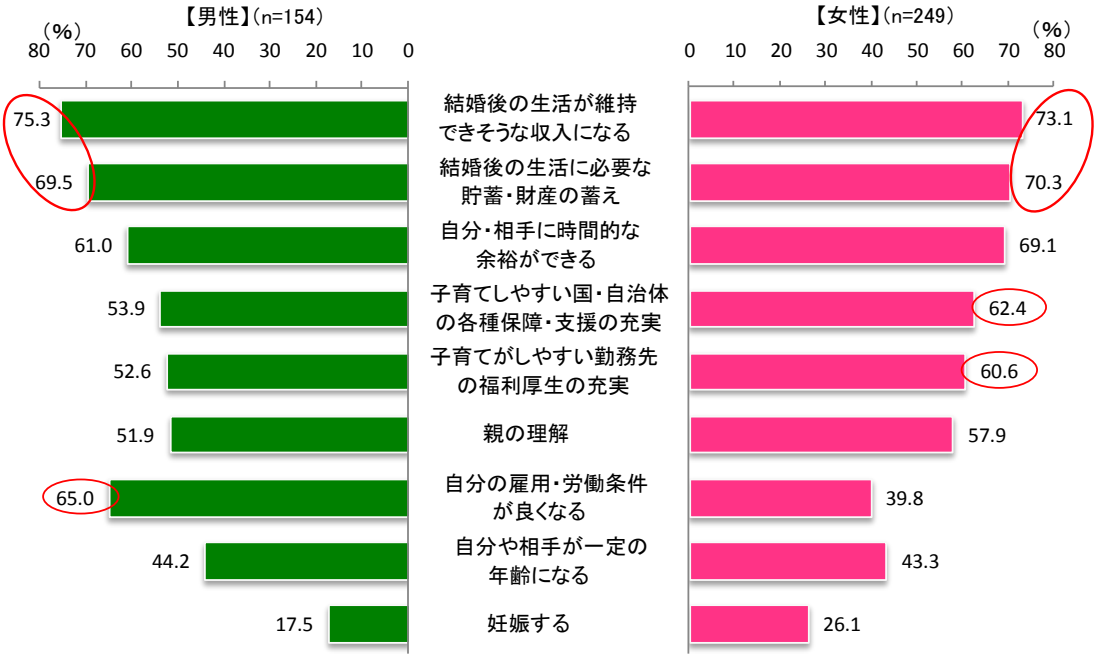
（１）独身者が「結婚に踏み切るために必要だ」と思う自分自身や周りの変化

結婚に踏み切るキッカケになると考えられる要素について、交際中の異性がいる人に、その要素が必要と思うかどうかを尋ねたところ、「必要」および「どちらかというと必要」と回答があった割合は、「結婚後の生活が維持できそうな収入になる」「結婚後の生活に必要な貯蓄・財産の蓄え」といった経済的要素に係る項目が男女とも約７割の高い支持となりました。

次いで、「自分・相手に時間的な余裕ができる」「子育てしやすい国・自治体の各種保障・支援の充実」「子育てがしやすい勤務先の福利厚生の充実」も６割前後の支持ですが、子育て環境の充実は特に女性が高い割合となっています。

また、女性は男性より「親の理解」を重視し、男性は女性より「自分の雇用・労働条件が良くなる」をかなり重視している傾向が見られました。男性は家庭を経済的に支える責任を強く感じている様子がうかがえます。

図表 4-1　結婚に踏み切るために必要だと思う変化（交際中の異性がいる人）（「必要」「どちらかというと必要」「どちらともいえない」「どちらかというと不必要」「不必要」の５段階のうち、「必要」または「どちらかというと必要」と回答した割合）



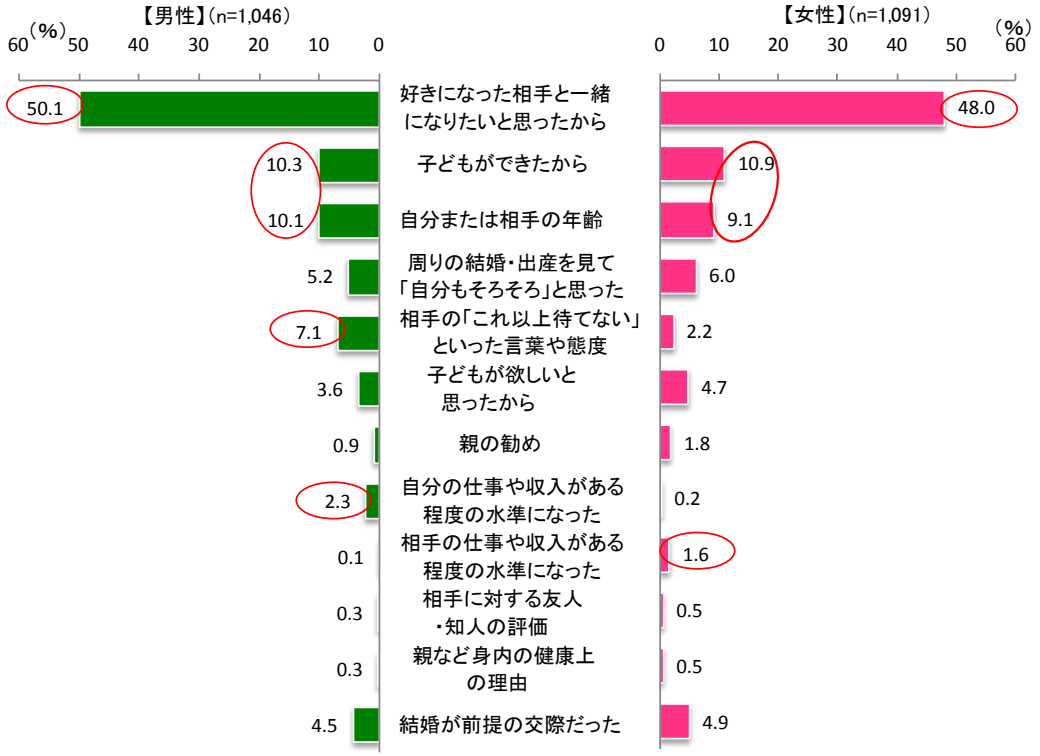
（２）既婚者が結婚を決断した一番のキッカケ

「結婚を決断した理由」の中で一番のキッカケになったのは「好きな相手と一緒になりたいと思った」が約半数を占め、愛情が基本であることがうかがえます。次いで、「子どもができたから」「自分または相手の年齢」が 10%前後で続いており、やはり、妊娠や年齢は結婚を決断する理由としては大きいようです。

また、１割弱の男性が、女性の「これ以上待てない」といった言葉や態度で結婚を決断しています。

なお、上記（１）で独身者が結婚に踏み切るために必要と考える要素として高い支持があった「収入」が結婚を決断する最大のキッカケになったケースは多くありませんでした。“案ずるより産むが易し”“愛情があれば、経済面はあまり大きな問題ではない”と言えるのかもしれません。

図表 4-2　結婚を決断した一番のキッカケ（既婚者）



（３）結婚した年齢別に見る「結婚を決断した一番のキッカケ」

「好きになった相手と一緒になりたいと思った」は、どの年齢で結婚した人にも共通して多く見られますが、結婚した年齢で特徴的な違いが見られるキッカケもあります。

「子どもができたから」は 20 代で高く、30 代では「自分または相手の年齢」が高くなります。

また、「周りの結婚・出産を見て『自分もそろそろ』と思った」「相手の『これ以上待てない』といった言葉や態度」「親など身内の健康上の理由」の項目は年齢が上がるにつれ上昇します。

図表 4-3　結婚を決断した一番のキッカケ（既婚者・結婚年齢別）　（%）

	結婚年齢		
	20 代	30 代	40 代
好きになった相手と一緒になりたいと思った	50.7	45.8	52.3
自分または相手の年齢	8.0	14.6	2.3
周りの結婚・出産を見て「自分もそろそろ」と思った	5.2	6.6	9.1
子どもができた	12.6	3.1	2.3
子どもが欲しいと思った	4.5	3.5	2.3
相手の「これ以上待てない」といった言葉や態度	4.5	4.9	6.8
自分の仕事や収入がある程度の水準になった	1.1	1.7	0.0
親の勧め	1.1	2.3	0.0
親など身内の健康上の理由	0.2	0.9	2.3

５．結婚相手との出会い方の“理想”と“現実”

○ 独身者が結婚相手との出会いとして期待するものは、「友人の紹介」「同じ職場」「趣味やスポーツのサークル」が３割以上
○ 配偶者と知り合ったキッカケは「同じ職場」「友人の紹介」「学生時代」が上位
○「趣味やスポーツのサークル」「同窓会」「上司・同僚の紹介」は、期待するほど結婚につながらない！？

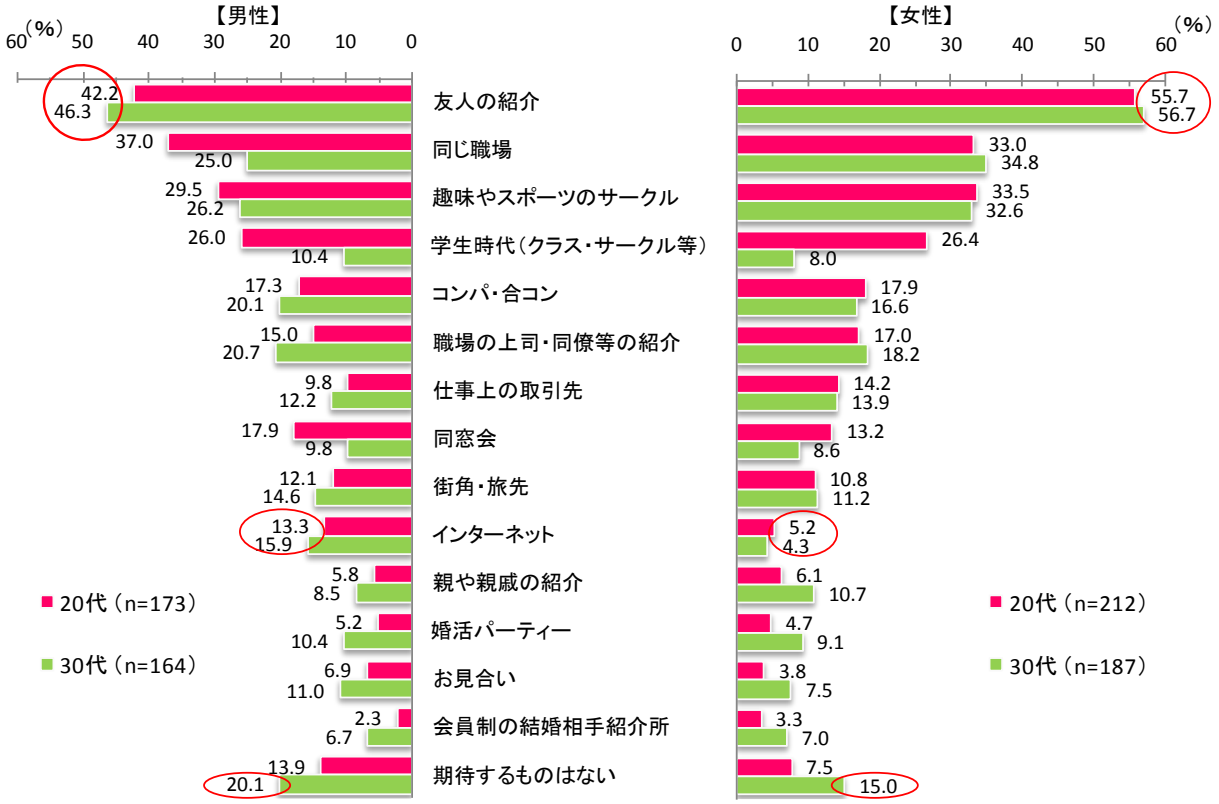
（１）独身者が結婚相手と知り合うキッカケとして期待するもの

「できるだけ早く結婚したい」または「いずれは結婚したい」と考えている 20 代・30 代の独身者が結婚相手との出会いとして期待するもの（複数回答）のトップは「友人の紹介」です。次いで、「同じ職場」「趣味やスポーツのサークル」「学生時代（クラス・サークル等）」「コンパ・合コン」「職場の上司・同僚等の紹介」などが続きます。

男女の違いに着目すると、女性が多いものとして「友人の紹介」（20 代は女性 55.7%、男性 42.2%。30 代は女性 56.7%、男性 46.3%）、男性が多いものでは「インターネット」（20 代は男性 13.3%、女性 5.2%。30 代は男性 15.9%、女性 4.3%）が挙げられます。

年代別では、20 代で「同じ職場」「同窓会」「学生時代（クラス・サークル等）」などが 30 代と比べ相対的に高く、30 代では「お見合い」「婚活パーティー」「親や親戚の紹介」「職場の上司・同僚等の紹介」が高い結果となりました。なお、30 代では「できるだけ早く結婚したい」「いずれは結婚したい」と思う人でも、男性の 20.1%、女性の 15.0%が結婚相手と知り合うキッカケとして「期待するものはない」と回答しました。

図表 5-1　結婚相手と知り合うキッカケとして期待するもの（「できるだけ早く結婚したい」または「いずれ結婚したい」と回答した人。複数回答）

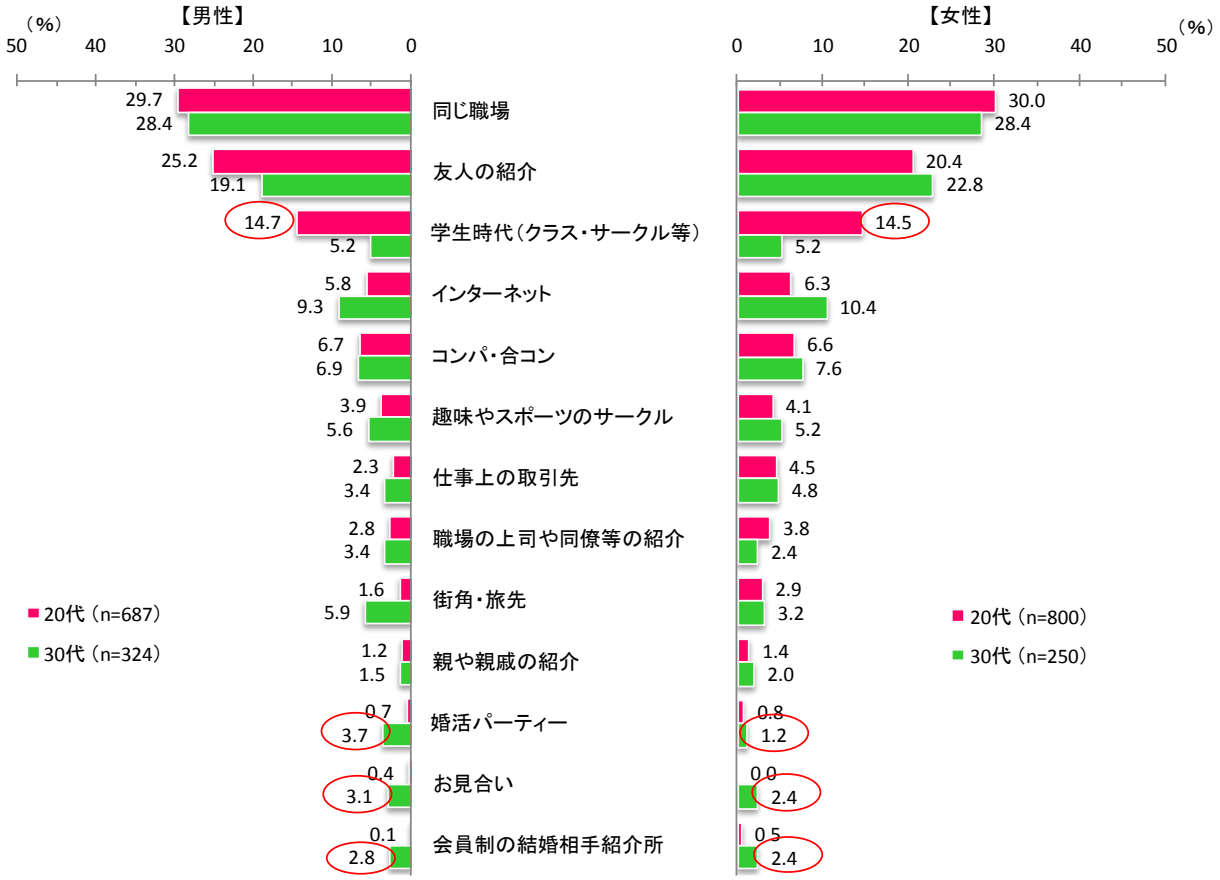


（２）既婚者が結婚相手と知り合ったキッカケ

20 代・30 代で結婚した人が配偶者と知り合ったキッカケとしては、「同じ職場」がトップ。次いで、「友人の紹介」、「学生時代（クラス・サークル等）」が続きます。

結婚した年齢（年代）別に見ると、20 代では「学生時代（クラス・サークル等）」が 30 代より高く、30 代では「お見合い」「婚活パーティー」「会員制の結婚相手紹介所」などが 20 代より高くなります。

図表5-2　結婚相手と知り合ったキッカケ（既婚者）



（３） 独身者が知り合うキッカケとして期待するものと実際のギャップ

20 代・30 代の独身者が期待するキッカケと 20 代・30 代で結婚した既婚者を対比してみると、次のような特徴が見られました。

①「同窓会」「趣味やスポーツのサークル」「婚活パーティー」「上司・同僚の紹介」「親や親戚の紹介」「お見合い」などは、20 代・30 代の独身者が期待するほど結婚にはつながっていない。

②「同じ職場」「学生時代（クラス・サークル等）」は独身者の期待どおりに結婚につながっている。

図表 5-3　独身者が期待するキッカケと既婚者が配偶者と知り合ったキッカケとの比較

	キッカケ	①独身者の期待	②既婚者の実際	②/①　×100
期待程度に結婚につながる	同じ職場	32.6%	29.5%	90.4
	学生時代（クラス・サークル等）	18.1%	12.0%	66.3
	友人の紹介	50.7%	22.1%	43.6
	コンパ・合コン	17.9%	6.3%	35.2
	仕事上の取引先	12.6%	3.6%	28.6
	街角・旅先	12.1%	3.0%	24.7
	会員制の結婚相手紹介所	4.8%	1.0%	20.8
	お見合い	7.1%	1.3%	18.3
	親や親戚の紹介	7.7%	1.4%	18.2
	上司・同僚の紹介	17.7%	3.2%	18.1
	婚活パーティー	7.2%	1.3%	18.1
期待ほど結婚につながらない	趣味やスポーツのサークル	30.7%	4.4%	14.3
	同窓会	12.4%	0.8%	6.5

６．あなたにとって「結婚」とは

○ 結婚とは？ ――「我慢」の男性、「忍耐」の女性
○ 男性は結婚に責任を感じ、女性は家族・生活・安心を求める

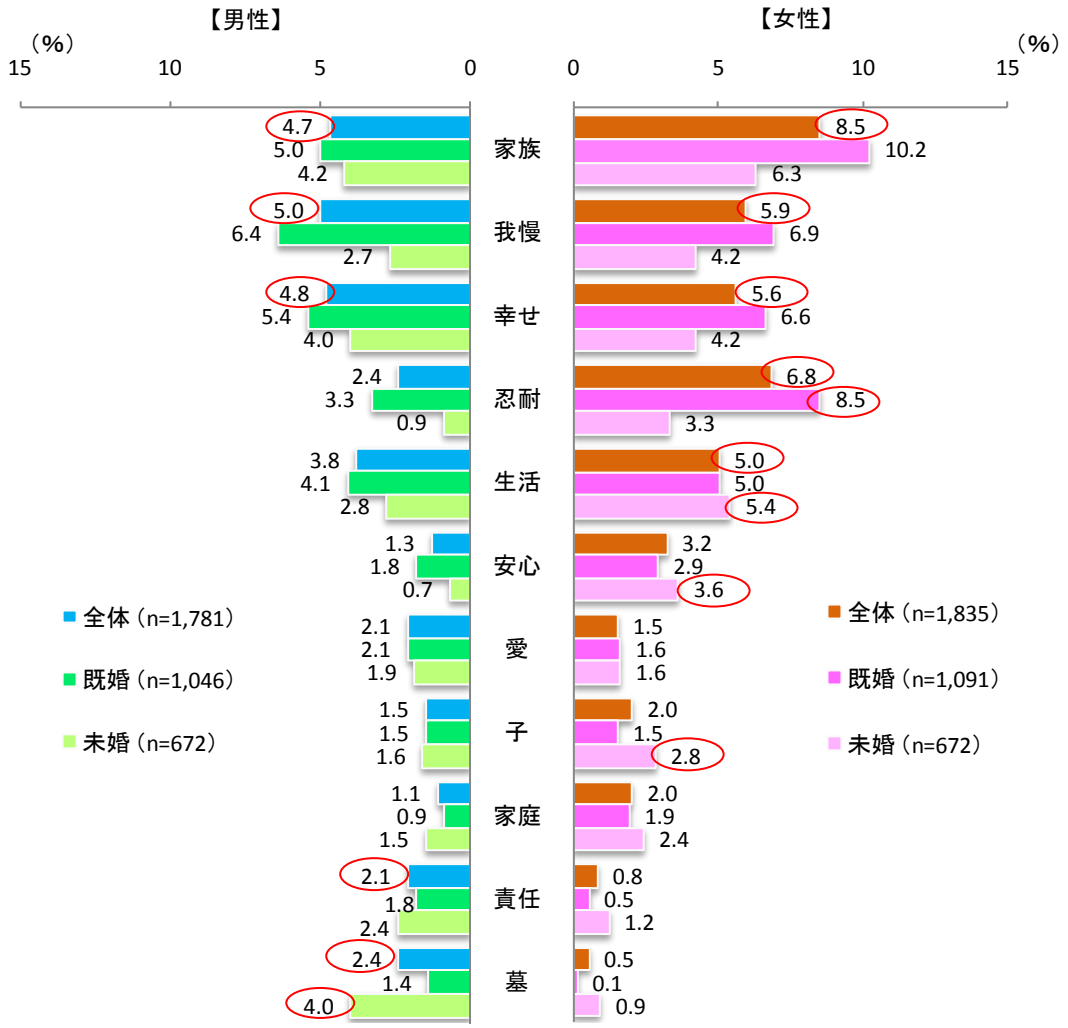
（１）「結婚」に対するイメージの男女の違い

「あなたにとって結婚とは？」について 15 文字以内で自由に書いてもらった回答をキーワードで分類してみると、特徴が見られました。

男性のベスト５は「我慢」「幸せ」「家族」「生活」「墓」。女性のベスト５は「家族」「忍耐」「我慢」「幸せ」「生活」でした。男性は、“やりたいことを我慢して、家族や幸せを得る”との考え方が多いように見えますが、女性は、我慢レベルを超える「忍耐」の回答もかなり多く、男女間に“結婚”に対するイメージに格差があるような印象です。

男女の回答率に差が大きいものを見ると、男性では「責任」「墓」を、女性では「家族」「忍耐」「生活」「安心」などを多くの人が挙げています。男性は、結婚に責任を感じ、女性は家族、生活、安心を求めていますが忍耐も必要と考えているケースが多いようです。

図表 6-1　「結婚とは」の回答に多く登場するキーワード



（２）「結婚」に対するイメージの未婚・既婚での違い

女性全体で第５位の「生活」は、未婚女性に限ると第２位と高く、また、「安心」も既婚者との対比では未婚者は比較的多く、未婚の女性は結婚に「生活」や「安心」をイメージしやすいことがわかりました。一方、「忍耐」は、既婚女性（8.5%）が未婚女性（3.3%）を大きく上回っており、結婚生活から「忍耐」を実感している様子がうかがえます。また、面白いことに、「子」のキーワードは、既婚女性より未婚女性の回答が上回りました。未婚女性が、結婚と子どもを結びつけて考えるケースも多いのでしょう。

未婚男性では、「墓」が 4.0%で、「家族」「幸せ」と並んでトップクラスであり、既婚男性の 1.4%よりかなり高い割合です。俗に『結婚は人生の墓場』と言われることから未婚者でも連想しやすかったのでしょう。既婚男性は未婚男性ほどには結婚生活を「墓場」とは思っていないようで、ちょっとほっとしますね。

図表 6-2　「結婚とは？」の回答に含まれるキーワード数の未婚者・既婚者での比較

【男　性】　（%）

	①既婚	②未婚	①/②×100
家族	5.0	4.2	119.0
我慢	6.4	2.7	237.0
幸せ	5.4	4.0	135.0
忍耐	3.3	0.9	366.7
生活	4.1	2.8	146.4
安心	1.8	0.7	257.1
子	1.5	1.6	93.8
墓	1.4	4.0	35.0

【女　性】　（%）

	①既婚	②未婚	①/②×100
家族	10.2	6.3	161.9
我慢	6.9	4.2	164.3
幸せ	6.6	4.2	157.1
忍耐	8.5	3.3	257.6
生活	5.0	5.4	92.6
安心	2.9	3.6	80.6
子	1.5	2.8	53.6
墓	0.1	0.9	11.1

７．結婚生活の理想と現実

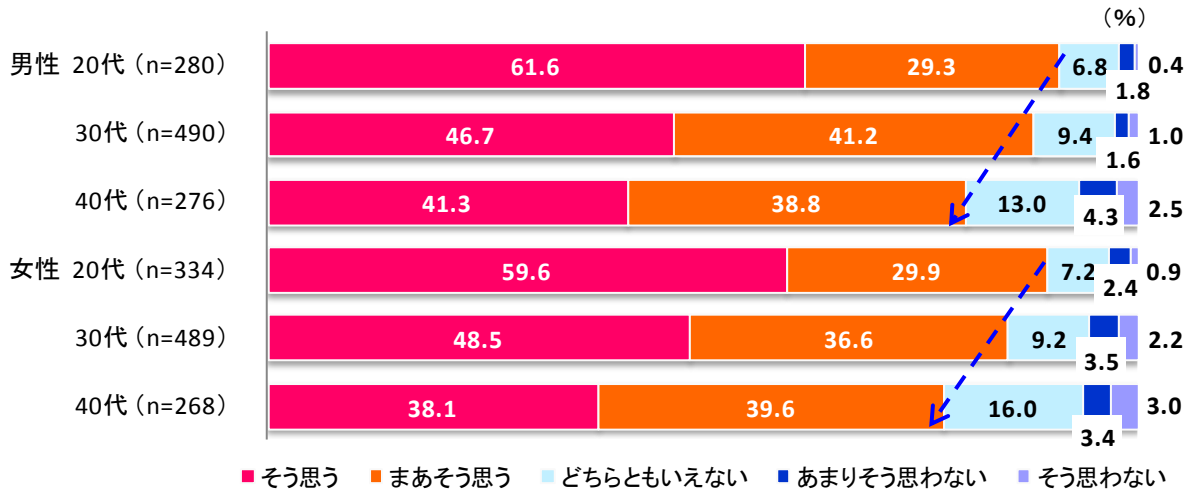
○「結婚してよかった」― 20 代は男女とも９割。年代が上がると低下
○ 結婚してよかった理由 ―「好きな人と暮らせた」「家庭を持てた」「子どもを持てた」
○ よかったと思わない理由 ― ８割近くが「配偶者に不満」。女性は「精神的なつらさ」も

（１）結婚してよかったか

既婚者に「結婚してよかったと思いますか」と尋ねたところ、男女ともほぼ８割以上が「そう思う」または「まあそう思う」と回答しました。

年齢別では、婚姻期間が短い人が相対的に多い 20 代が男性 90.9%、女性 89.5%であるのに対し、30 代は男性 87.9%、女性 85.1%、40 代では男性 80.1%、女性 77.7%と年齢とともに低下しています。特に「そう思う」が 20 代の男性 61.6%、女性 59.6%から 40 代の男性 41.3%、女性 38.1%へ大きく低下。結婚からの経過年数とともに結婚の良さの実感が下がるというちょっと残念な傾向が見てとれます。

図表 7-1　結婚してよかったと思うか（既婚者）



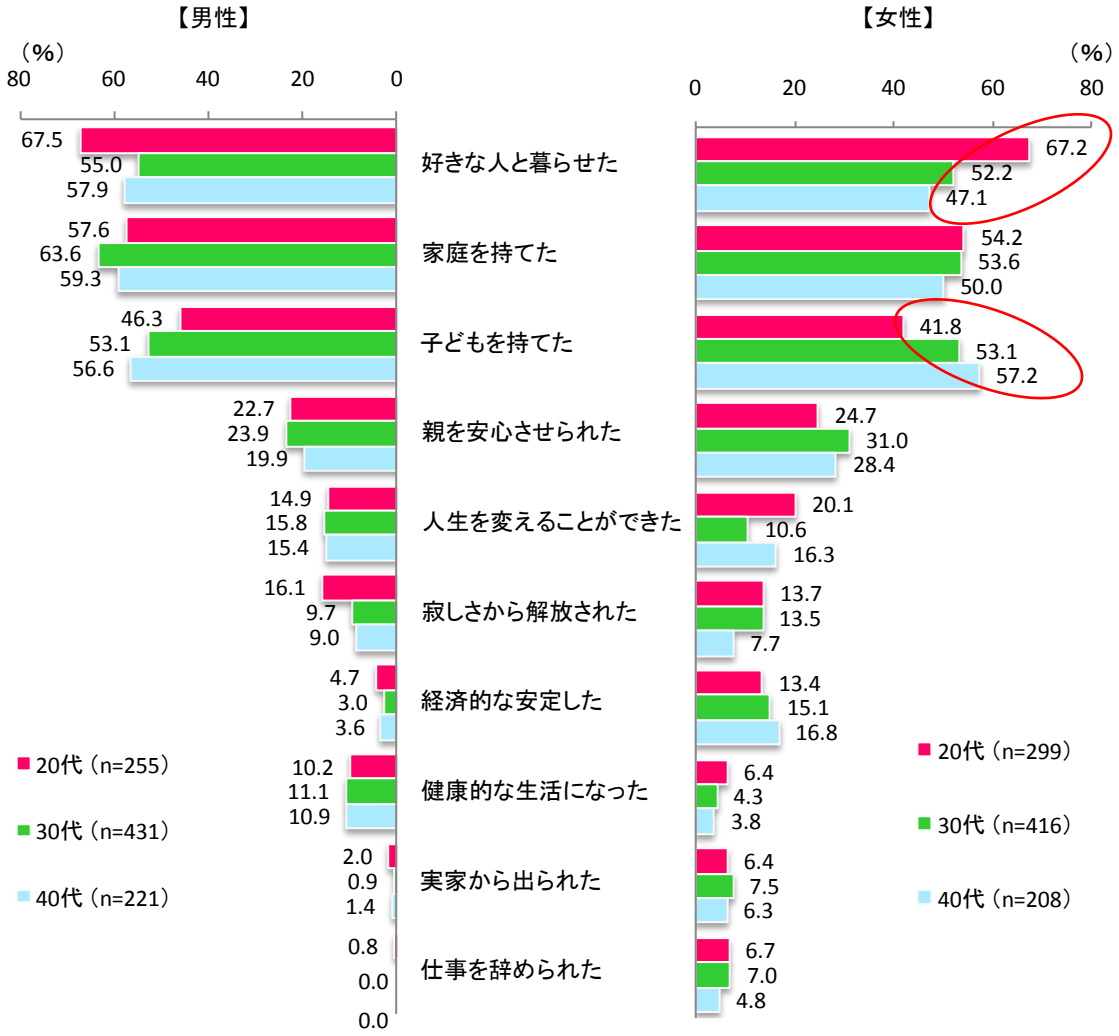
（２）結婚してよかったと思う理由

結婚してよかったと思う（「そう思う」または「まあそう思う」）人にその理由（複数回答）を尋ねたところ、男女とも「好きな人と暮らせた」「家庭を持てた」「子どもを持てた」がほぼ半数を上回り、「親を安心させられた」という項目も４人に１人が挙げています。

男女別の特徴としては、男性が女性より「好きな人と暮らせた」「家庭を持てた」「健康的な生活になった」が高く、女性は「経済的に安定した」「親を安心させられた」に加え「実家から出られた」「仕事を辞められた」の回答も男性より高くなっています。女性は現実の生活に関連が強い項目が高い様子がうかがえます。

年代別では、「好きな人と暮らせた」は年代が上がるにつれ低下しており、特に女性では 20 代の 67.2%から 40 代の 47.1%に大きく低下し、一方で「子どもが持てた」が増加しています。女性は、婚姻期間の経過とともに夫から子どもなどに気持ちがシフトする一面がうかがえます。

図表 7-2　結婚してよかったと思う理由（「結婚してよかったと思うか」に「そう思う」または「まあそう思う」と回答した人。複数回答）

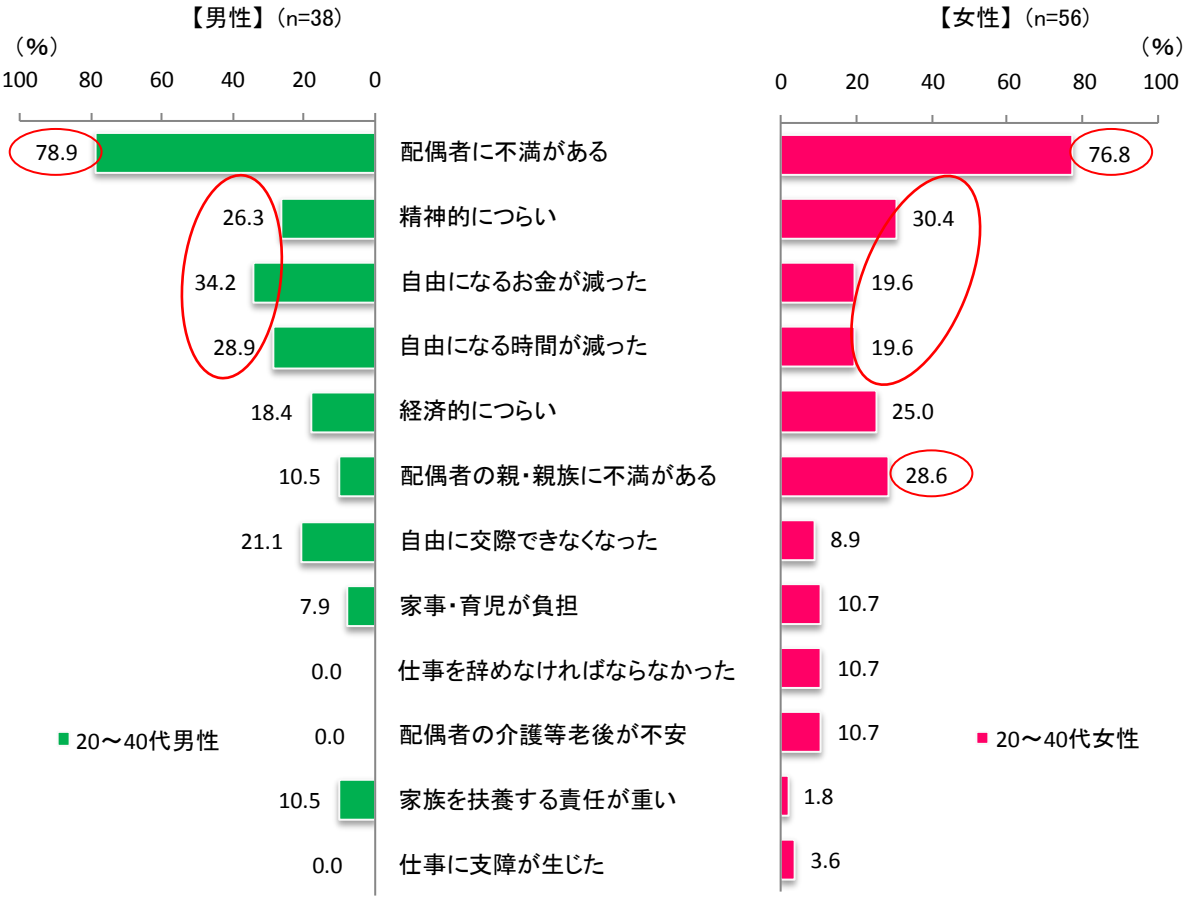


（３）　結婚してよかったと思わない理由

結婚してよかったと思わない理由（複数回答）としては、「配偶者に不満がある」が男女とも飛びぬけて高く８割近くに達しています。そして、「精神的につらい」「自由になるお金が減った」「自由になる時間が減った」をほぼ２割以上の人が挙げています。

男性は、「自由になるお金が減った」「自由になる時間が減った」が２位・３位、一方、女性は「精神的につらい」「配偶者の親・親族に不満がある」が２位・３位と違いが見られます。男性は“自由が少なくなる”ことに不満を感じるレベルですが、女性は家事・育児負担に加え親・親戚づきあいなど、結婚生活でストレスを感じる場面が男性よりも多いことが結果に表れています。

図表 7-3　結婚してよかったと思わない理由（「結婚してよかったと思うか」に「あまりそう思わない」または「そう思わない」と回答した人。複数回答）



８．現在の暮らしの満足度、配偶者に望むこと

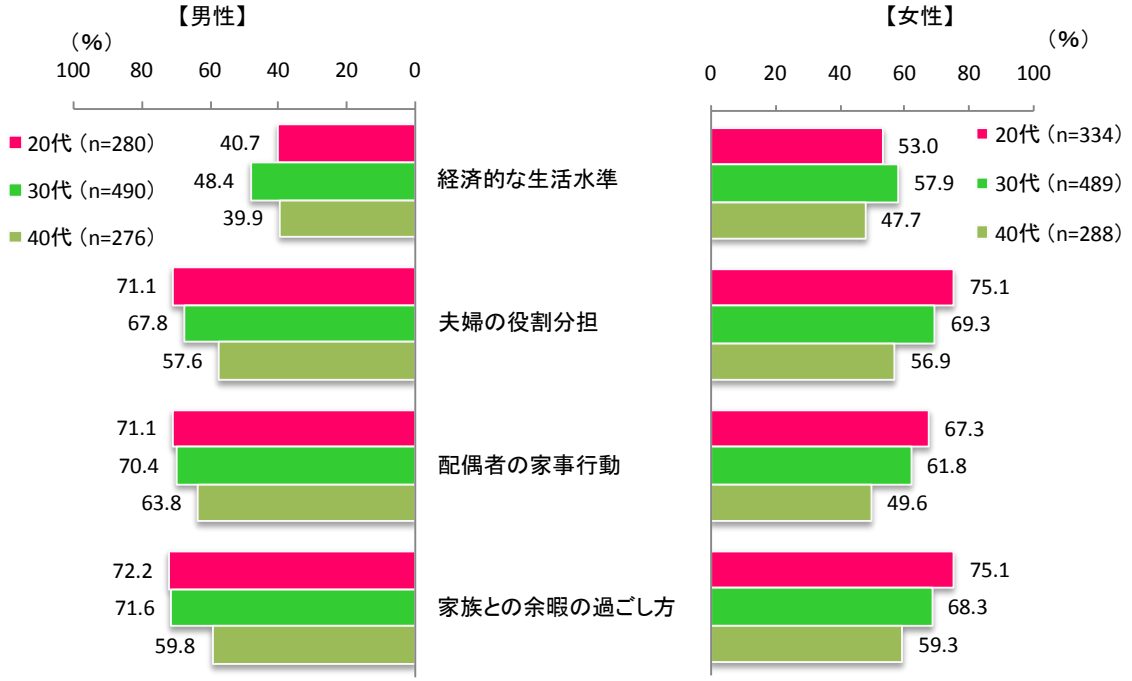
○「夫婦の役割分担」「配偶者の家事行動」「家族との余暇の過ごし方」の満足度は７割
○ 夫に望むことのトップは「健康に気をつけてほしい」。妻には「短気・ヒステリーはやめてほしい」
○「配偶者に望むことは特にない」―― 夫は 28%、妻は 15%。妻は注文が多め？

（１）現在の暮らしの満足度

「経済的な生活水準」「夫婦の役割分担」「配偶者の家事行動」「家族との余暇の過ごし方」の４点について、現在の満足度を尋ねたところ、「経済的な生活水準」に関する“満足派”（「満足」と「まあ満足」）は、男性では半数を割り、女性もほぼ半数にすぎませんでした。長引く不況で収入面では必ずしも満足できていないことが結果に表れています。

「夫婦の役割分担」「配偶者の家事行動」「家族との余暇の過ごし方」については、３人に２人程度は“満足派”で、「経済的な生活水準」よりは高い結果です。ただし、この３項目はいずれも年代とともに満足度は低下しており、特に女性にその傾向が強く見られました。夫は年齢が 30 代、40 代と上がるにつれて家庭へのかかわり方が不十分になり、妻の満足度が下がってしまうということなのでしょう。

図表 8-1　現在の暮らしの満足度（既婚者。「満足」または「まあ満足」と回答した割合）



（２）配偶者に望むこと

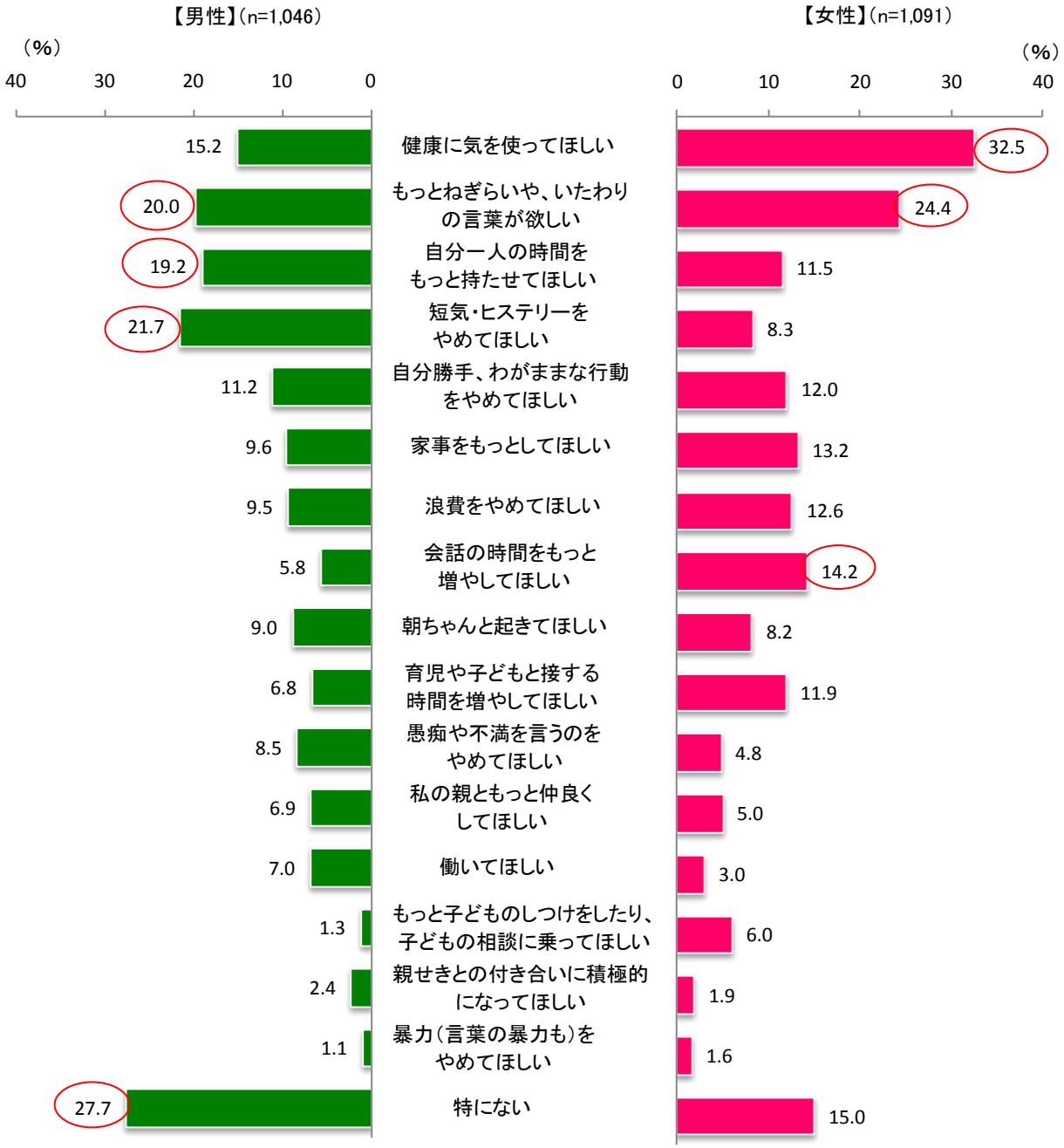
夫が妻に対して望むことのトップは「短気・ヒステリーをやめてほしい」（21.7%）でした。次いで、「もっとねぎらいやいたわりの言葉が欲しい」、「自分ひとりの時間をもっと持たせてほしい」、「健康に気を使ってほしい」が続きます。一方、妻が夫に対して望むことのトップは、「健康に気を使ってほしい」（32.5%）。そして、「もっとねぎらいやいたわりの言葉が欲しい」、「会話の時間をもっと増やしてほしい」、「家事をもっとしてほしい」の順となっています。

また、配偶者に「望むことは特にない」人の割合は、夫が 27.7%なのに対し、妻は 15.0%にと

どまり、妻から夫への望み・注文のほうが多いことが分かります。

妻が夫に「自分や家のことにもっと関心を寄せてほしい」と望んでいるのに、夫がそうできていないことで妻の短気・ヒステリーにつながっているケースも多いのかもしれません。夫婦のコミュニケーションやねぎらい、いたわりの気持ちが夫婦円満の秘訣と言えそうです。

図表 8-2　配偶者に望むこと（既婚者。複数回答）



９．離婚

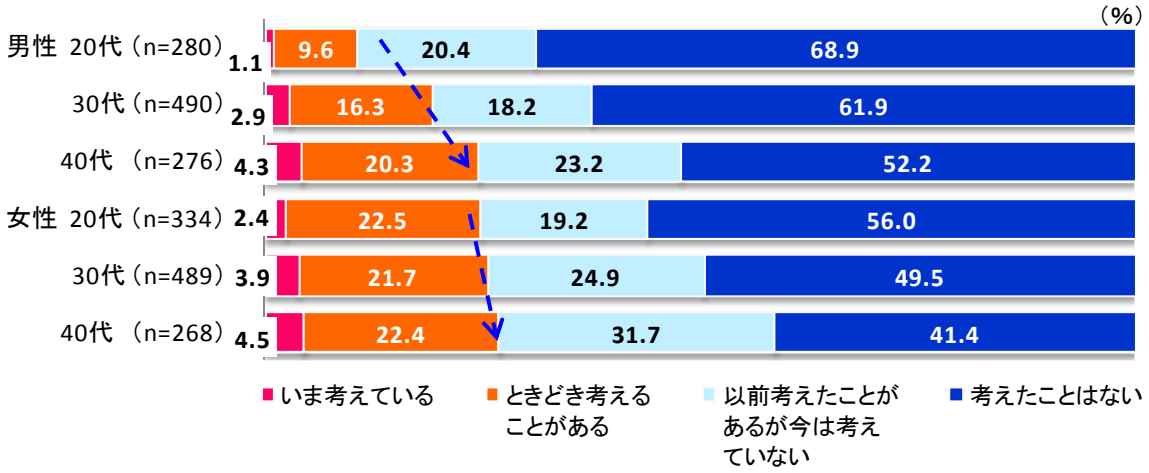
○ 40 代の４人に１人が離婚を意識。30 代も夫の５人に１人、妻の４人に１人が
○ これをやっていると離婚の危機が ――
「暴力（言葉の暴力）」「自分勝手、わがまま」「育児への非協力」「働かない」「ぐち・不満」

（１）離婚を考えることがあるか

離婚を考える（「いま考えている」と「ときどき考えることがある」）割合は、男女とも年齢層が上がるにつれて高まる傾向が見られました。30 代では男性の５人に１人、女性の４人に１人が、40 代になると男女とも４人に１人が離婚を考えると回答しています。

女性は 20 代でも 24.9%もの人が離婚を意識している点が注目されます。女性は結婚生活の比較的早い段階から夫の家事・育児に協力的でないことや金銭の浪費、夫の親・家族との関係などを原因として、結婚生活を続けていくことに疑問を感じるケースが多いのかもしれません。一方、20 代男性では離婚を考える人は 10.7%にとどまっています。

図表 9-1　離婚を考えること、考えたことがあるか（既婚者）

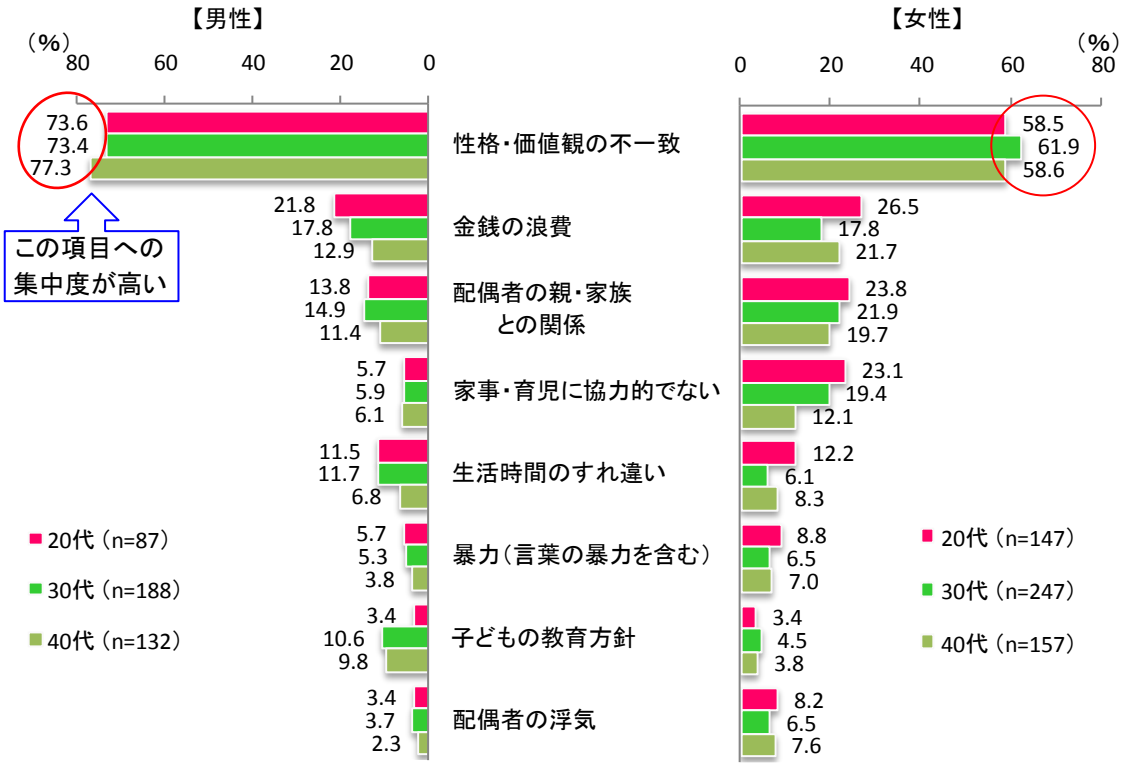


（２）離婚を考える理由

離婚を考える理由（複数回答）は「性格・価値観の不一致」が断トツで、男性の７割強、女性の６割が挙げています。２番目以降では、男性が「(配偶者の) 金銭の浪費」「配偶者の親・家族との関係」「生活時間のすれ違いが多い」の順であるのに対し、女性では「配偶者の親・家族との関係」「(配偶者の) 金銭の浪費」「家事・育児に協力的でない」と違いが見られます。

また、「性格・価値観の不一致」を挙げた割合は男性のほうが高く、女性には「性格・価値観」以外のもっと明確な理由が目立ちます。男性は“なんとなく配偶者の性格や考え方が嫌になる”ケースが多いということでしょうか。世の男性は、奥さんの良さ、内助の功などを再認識する努力をもうちょっとしたほうが良いかもしれませんね。

図表 9-2　離婚を考えている（考えたことがある）理由（離婚を考えたことがある人。複数回答）



（３）離婚の危機の要因

「配偶者に望むこと」の項目別に、回答者が離婚を考えている割合を見てみました（図表 9-3）。「暴力（言葉の暴力を含む）をやめてほしい」と望んでいる場合、男女とも約 55%が離婚を考えています。「自分勝手、わがままな行動をやめてほしい」「育児や子どもと接する時間を増やしてほしい」「働いてほしい」「ぐちや不満を言うのをやめてほしい」なども高い項目で、女性では「浪費をやめてほしい」も 40%を超えています。このあたりが疎かになっていると離婚の危機を迎えるかも知れません。よく心がけておきたいものですね。

なお、「健康に気をつけてほしい」「朝ちゃんと起きてほしい」などは、愛情が感じられる要求だけあって、離婚を考える人は多くありませんでした。

図表 9-3　「配偶者に望むこと」の各項目を選んだ人が離婚を考える割合

＜離婚を考える割合が高いもの＞　（%）

	項　目	男性	女性
①	暴力（言葉の暴力を含む）をやめてほしい	54.5	55.6
②	自分勝手、わがままな行動をやめてほしい	36.8	55.7
③	育児や子どもと接する時間を増やしてほしい	31.3	39.2
④	働いてほしい	26.0	60.6
⑤	ぐちや不満を言うのをやめてほしい	30.3	44.2
⑥	子どものしつけや、子どもの相談にのってほしい	21.4	36.9
⑦	浪費をやめてほしい	21.2	40.6
⑧	短気・ヒステリーをやめてほしい	29.5	37.4
⑨	もっとねぎらいや、いたわりの言葉が欲しい	23.9	36.8
⑩	家事をもっとしてほしい	28.0	31.9

＜離婚を考える割合が低いもの＞　（%）

	項　目	男性	女性
①	健康に気を使ってほしい	13.2	16.9
②	朝ちゃんと起きてほしい	24.5	22.5
③	親戚との付き合いに積極的に	20.0	28.6
④	会話の時間をもっと増やしてほしい	27.9	22.6
⑤	一緒の時間を増やしてほしい	16.7	27.6
⑥	自分ひとりの時間をもっと持たせてほしい	21.4	32.5
⑦	私の親ともっと仲良くしてほしい	23.6	29.1

※太枠は、男女間での差が大きい項目（15 ポイント以上の差がある項目）。

10. 「子どもを持つこと」への意識

○ 30 代前半までは「子どもが欲しい」人が大半。30 代後半の既婚女性は「欲しくない」と「あきらめた」の合計が半数を占め、「あきらめた」が３割近くに
○ 子どものいる 40 代男女の６割が「もっと子どもが欲しい（欲しかった）」
○ 30 代以降に親になった人の９割が「もっと早く子どもを持てばよかった」
○ 未婚女性は「妊活≒婚活」。既婚女性の妊活は「健康に気を使う」。30 代になると不妊検査や治療を受ける人が２割に

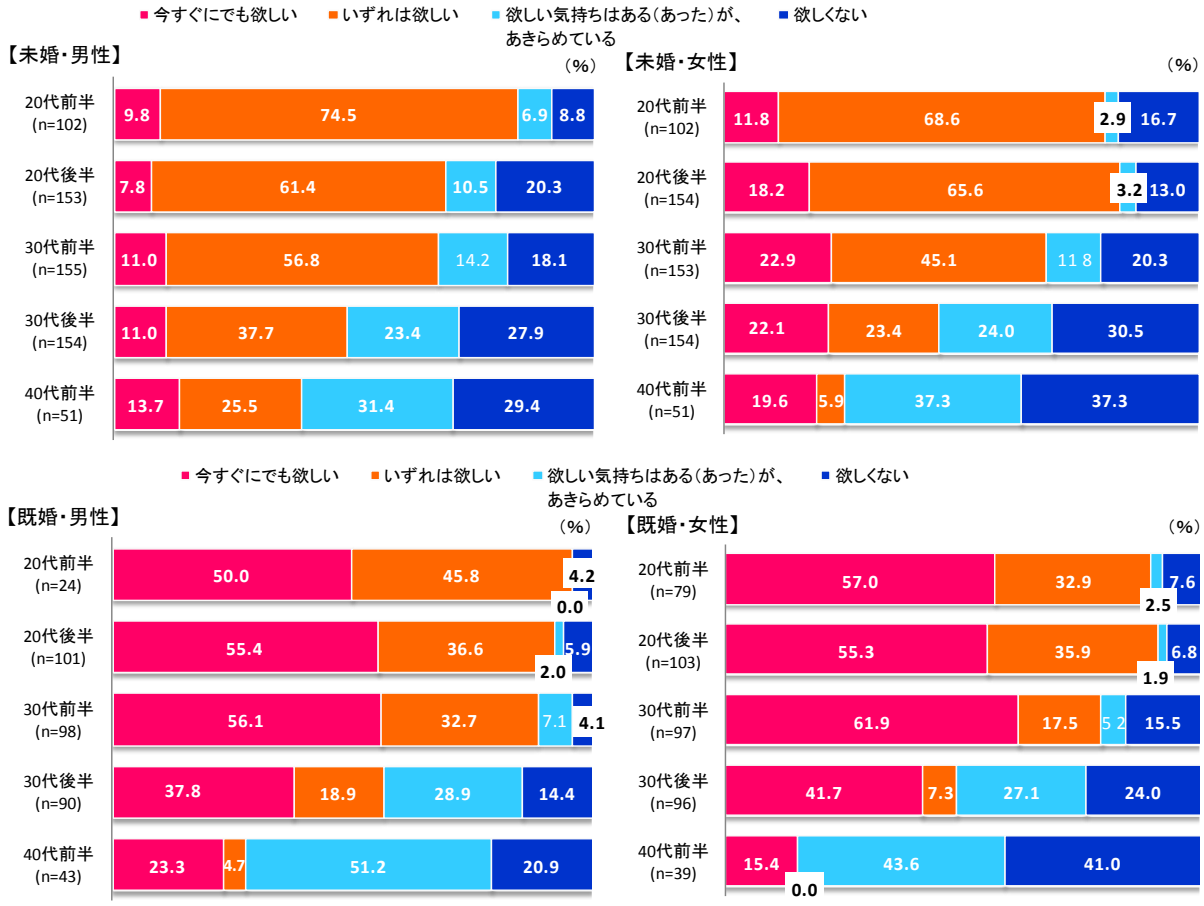
（１）子どもが欲しいか

① 子どもをあきらめる人が増えるのは 30 代後半

子どものいない人に、子どもが欲しいと思うか尋ねました。既婚者の場合、30 代前半までは「今すぐにでも欲しい」人が男女とも半数以上おり、「いずれは欲しい」も加えると、ほとんどの人が子どもを持つことを希望しています。また、未婚者も、30 代前半までは「いずれは欲しい」も含めて６～８割強の人が子どもを持ちたいと考えています。

子どもが「欲しくない」「欲しい気持はある（あった）が、あきらめている」と考える人の割合は、未婚者の方が高い傾向にあります。また、30 代後半になると、「欲しい気持はある（あった）が、あきらめている」人が大幅に増加します。妊娠・出産にはタイムリミットがありますが、30 代後半が境目になると考える人が多いようです。

図表 10-1　子どもが欲しいと思うか（子どもがいない人。男女別、配偶者の有無別）



② 子どもは何人欲しいか

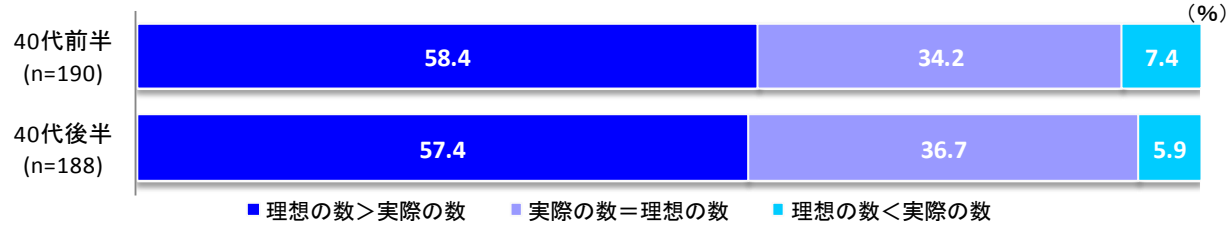
20 代～30 代の人が欲しいと考えている子どもの数の平均が図表 10-2 です。未婚の人よりも結婚している人の方が、結婚している人では子どものいない人よりも既に子どものいる人の方がより多くの子どもを望んでいます。また、「子どもが欲しい」と答えた人のみでみると、未婚の人でも平均は２人を超えています。子どもを持つのであれば、１人っ子より２人、３人ときょうだいがいることを望む人が多い結果となりました。

図表 10-2　欲しいと思う子どもの数（20 代～30 代。未・既婚、子どもの有無、男女別）

			平均	子どもが「欲しくない」「あきらめた」を除く
既婚	子どもあり	男性	2.42 人	2.43 人
		女性	2.50 人	2.52 人
	子どもなし	男性	1.81 人	2.22 人
		女性	1.67 人	2.17 人
未婚		男性	1.54 人	2.33 人
		女性	1.55 人	2.26 人

また、既に子どものいる人の実際の子どもの数と理想の子どもの数を比較してみました。子どものいる既婚者のうち「理想の子どもの数＝実際の子どもの数」という人は 40 代でも 35%程度。約６割は理想よりも少ない数の子どもしか持てていないという結果になっています。

図表 10-3　子どものいる既婚者の理想の子どもの数と実際の子どもの数

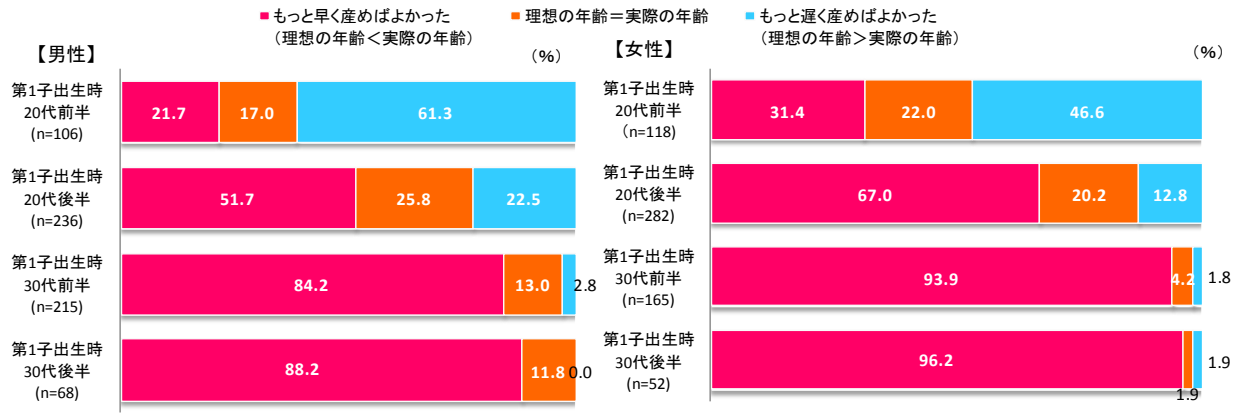


③ 子どもを持つなら早い方がいい ―― 子どものいる既婚者の理想と現実

子どものいる既婚者の「実際に第１子が生まれた時の年齢」と「第１子を産むのに望ましいと思う年齢」を比較しました。実際に第１子が生まれた時の年齢別にみたのが図表 10-4 です。

20 代後半に子どもに恵まれた人でも、男性の約半数、女性の７割近くが実際に第１子が生まれた年齢よりも早い年齢が望ましいと回答しています。晩婚化が進み、子どもを産む年齢は上昇していますが、実際に子どもを持つと、もっと若いうちに欲しかったと思う人が多いようです。第１子を持つ年齢の理想と現実にズレが出てきていることが、図表 10-3 で示した「理想の子どもの数＞実際の子どもの数」という結果につながっているのかもしれません。

図表 10-4　第１子が実際に生まれた時の年齢と、第１子を産むのに望ましいと思う年齢の関係（男女別、第１子出生時の年齢別）

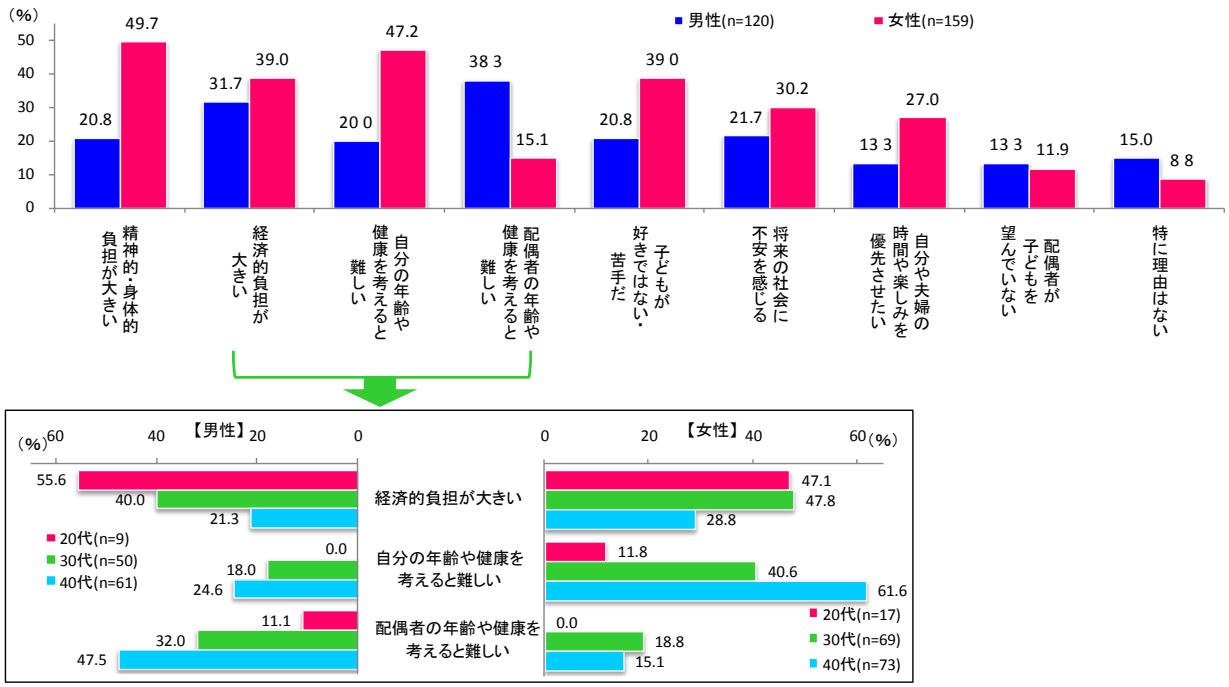


④ 既婚者の子どもが欲しくない・あきらめている理由

既婚者に「子どもが欲しくない」「欲しいと思う（思った）が、あきらめている」と回答した理由をたずねたところ、女性のおよそ半数が「精神的・身体的負担が大きい」「自分自身の年齢や健康を考えると難しい」を理由に挙げており、「経済的負担が大きい」「子どもが好きではない」も４割弱にのぼります。男性で多かったのは「配偶者の年齢や健康を考えると難しい」「経済的負担が大きい」の２つです。

年齢による差が顕著だったのが、「経済的な負担が大きい」「自分の年齢や健康を考えると難しい」「配偶者の年齢や健康を考えると難しい」の３つでした。若い年代では経済的な負担が子どもを持つことを躊躇させ、経済的に大丈夫だと思い始めると、次は妻の年齢や健康がハードルになっていることがうかがえます。

図表 10-5　既婚者の子どもが欲しくない・あきらめている理由（複数回答）



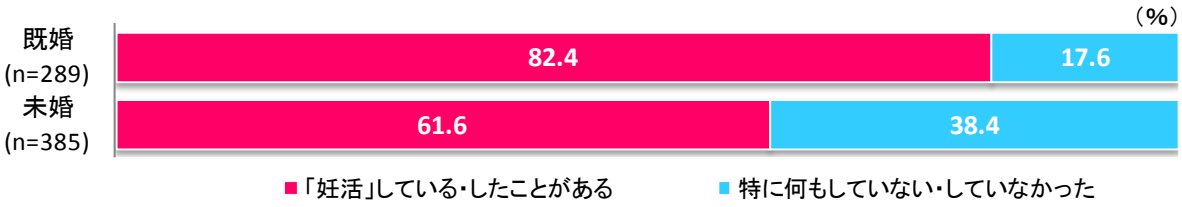
（２）“妊活”しているか ―― 未婚の人はほぼ婚活と連動。既婚者にはより具体的な行動が

今は子どもがいないが、「今すぐ欲しい」「いずれは欲しい」と考えている 20 代、30 代の女性に、妊娠や出産を意識した行動（妊活）をしているか尋ねたところ、既婚女性の約８割、未婚女性の約６割に妊活の経験がありました（図表 10-6）。

未婚女性では、「妊娠・出産可能な年齢を意識して結婚時期を考える」人が５割強にのぼりました。また約３割の人が「出産・育児を意識して交際相手を探す・選ぶ」と回答しており、未婚女性にとっては「妊活≒婚活」であることがうかがえます。

一方、既婚女性では「子どもを持つことについて具体的に配偶者と話し合う」が最も多く、このほか出産や育児のための貯蓄や、健康への気遣い、情報収集等、より具体的な行動に踏み出している人が増えます。また、30 代になると「妊娠・出産できるか医療機関で検査や治療を受ける」と回答した人も 23.4%にのぼりました。

図表 10-6　子どもを望む 20～30 代女性の妊娠・出産を意識してとった行動（妊活）の経験（配偶者の有無別）



図表 10-7　“妊活”の内容（複数回答。配偶者の有無別、年代別）

11. 子どもの保育と子育てサポート

○ 働くママが保育所を選ぶときに重視するのは「自宅から近い」「利用時間が長い」「職場から近い」。充実させてほしい保育サービスは「病児保育」や「利用時間の延長」
○ 夫の４人中３人が「自分は子育てに積極的」。妻も３人中２人が夫を「積極的」と評価
○「お祖父ちゃん、お祖母ちゃんからの子育てサポートあり」は８割
○ 子育ての情報源や相談相手。父親は「妻が頼り」、母親は「夫よりも自分の親、ママ友」

（１）保育サービス

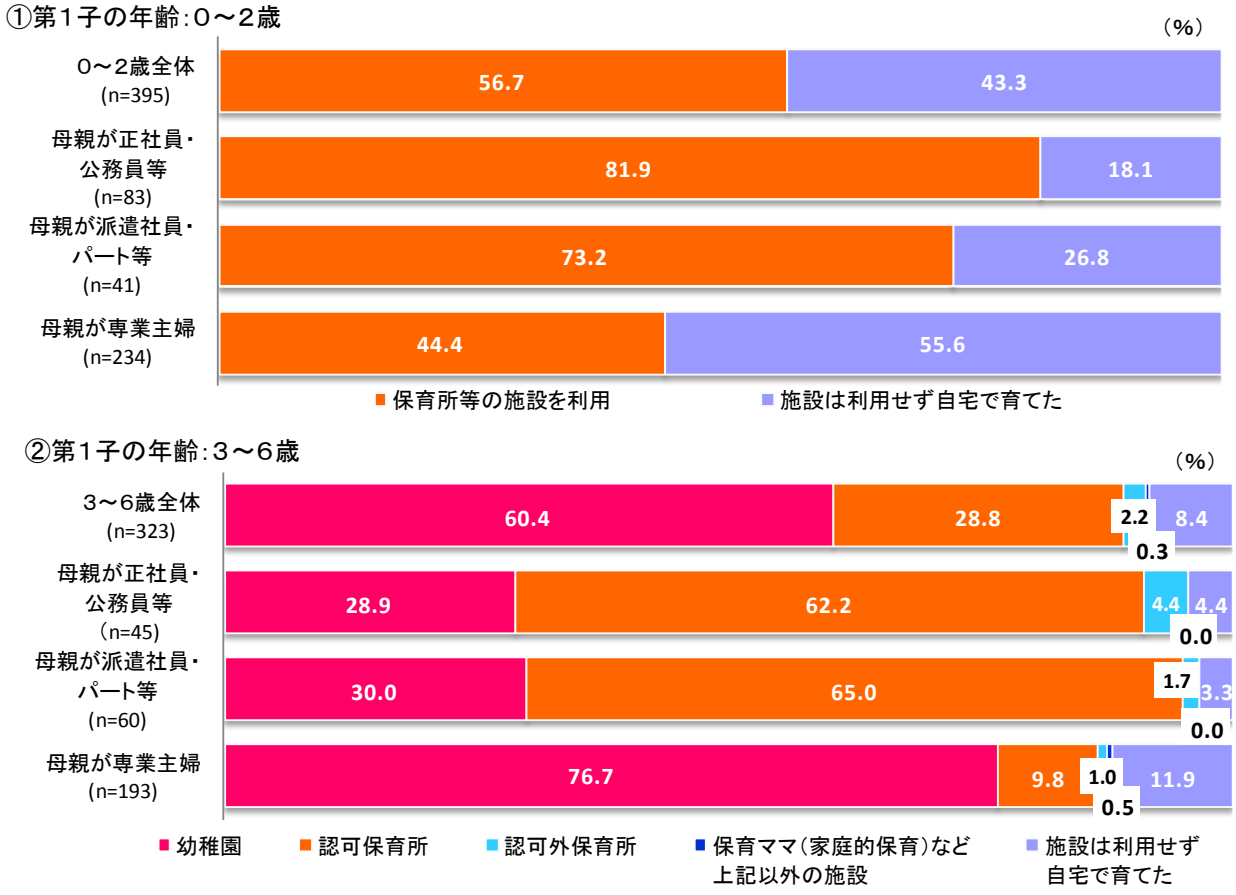
① 年齢、母親の就労形態で異なる利用する保育施設

「第１子が就学前に主に利用している保育施設は何ですか」という質問に対する、第１子が６歳以下の人の回答をみてみると、母親の就労形態によって大きな違いがありました。

０～２歳では、母親が専業主婦の場合は 55.6％と半数以上が自宅で育てられていますが、母親が正社員・公務員等では８割、派遣社員・パート等の場合は７割が何らかの保育施設に子を預けています。

子どもが３～６歳になると、ほとんどの子が幼稚園や保育所に通うようになります。母親が働いている子の６割が認可保育所、母親が専業主婦の子の８割近くが幼稚園と、母親の就労形態によって利用する施設が異なります。働きながら子育てをするには、子どもを長時間預かってもらえる保育所の利用がメインになるようです。

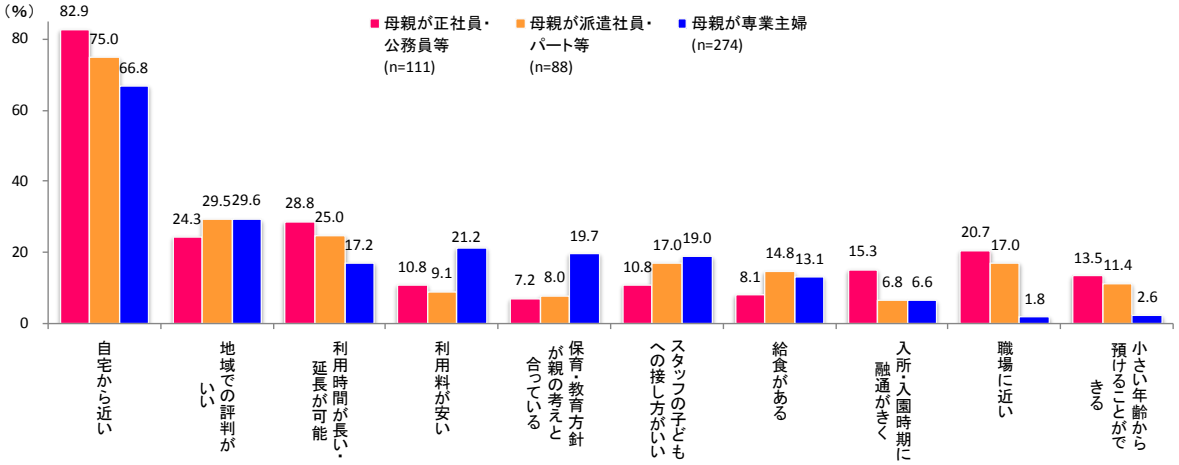
図表 11-1　第１子が就学前に利用している（していた）施設（第１子の年齢別・母親の就労形態別）



② 保育施設を選ぶ時に重視したこと

保育施設を選んだ時に重視したことをみてみると、これも母親の就労形態により違いがみられました。「自宅から近い」「利用時間が長い・延長が可能」「入所・入園時期に融通がきく」「職場に近い」「小さい年齢から預けることができる」など、仕事と育児の両立に必要と思われる項目はどれも母親が働いているほうが多く選んでいます。一方、稼ぎ手が父親だけになる専業主婦では「利用料が安い」を重視した割合が他より高くなっています。また「保育・教育方針が親の考えと合っている」「スタッフの子どもへの接し方がいい」等、保育・教育の内容についての項目を選ぶ割合も母親が専業主婦の方が高い結果となりました。

図表 11-2　保育施設を選ぶ時に重視したこと（回答は３つまで。母親の就労形態別・第１子が０～６歳）



③ 保育サービスに望むこと

「自分の子どもが利用した保育所や幼稚園等に対し、より充実させてほしいと思うサービス」の設問から、仕事と子育ての両立に必要と思われる選択肢をピックアップし、男女別（男性は妻の職業別、女性は自分自身の職業別）の特徴を見てみました。

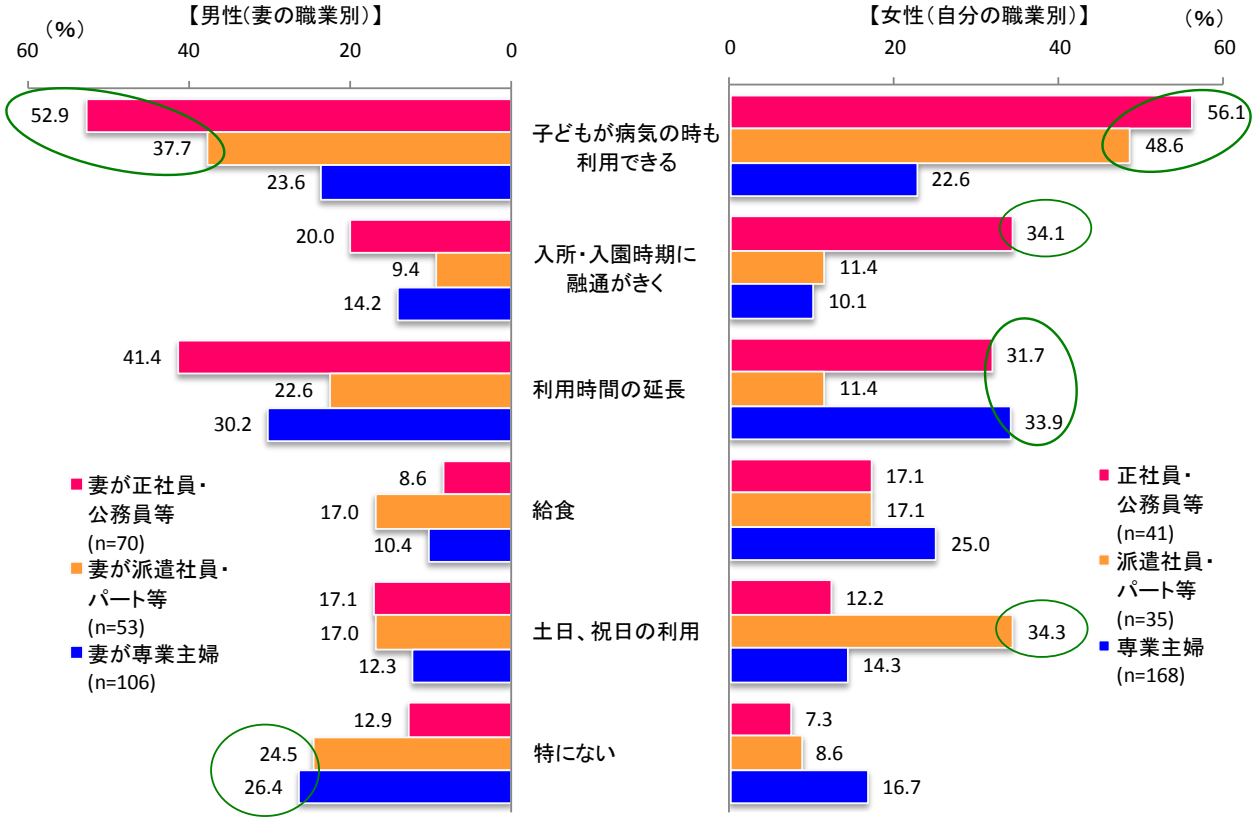
「子どもが病気のときも利用できる」は、妻が働いている男性の４～５割、働いている女性の５～６割が「もっと充実させてほしい」サービスとして選んでいます。病児保育が可能な施設はまだ少なく、共働きの夫婦、特に母親が子どもが病気の時の預け先に苦労していることがうかがえます。

産休・育休から仕事に復帰するうえで重要な「入所・入園時期に融通がきく」は正社員等の女性の３割が選んでいますが、派遣社員・パート等の女性は約１割にとどまります。勤務先の制度の有無だけでなく、職場の雰囲気等も含め「育休の取得しやすさ」は就労形態によって違っていることがここからみてとれます。

また、「利用時間の延長」は、正社員等と専業主婦の割合は高いですが、派遣社員・パート等の割合が低くなっています。派遣社員・パート等では短時間の仕事や残業の少ない仕事に就いている人が多いことを反映しているようです。一方で、「土日、祝日の利用」は派遣社員・パート等の女性が 34.3％と突出しており、休日営業の職場も多いことを反映しているのでしょう。

男性の回答も子の母親（＝妻）の就労形態によっておおむね女性と同様の傾向ですが、妻が派遣社員・パート等と、妻が専業主婦の男性は「特にない」と回答した人が４人に１人と、女性よりもかなり多い結果でした。子育てそのもの、そして仕事と子育ての両立等に係る苦労は、女性の方が強く感じていることを映しているのでしょうか。

図表 11-3　充実させてほしい保育サービス（複数回答。第１子が０～６歳）



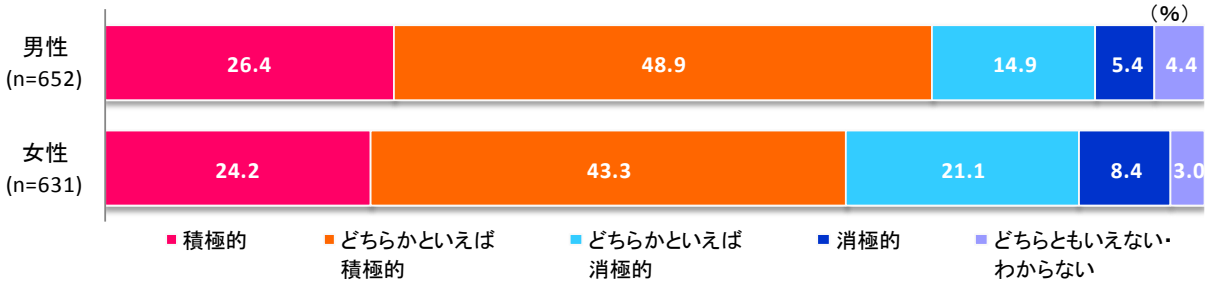
（２）子育てへの参加、サポート

① 父親の子育てへの参加

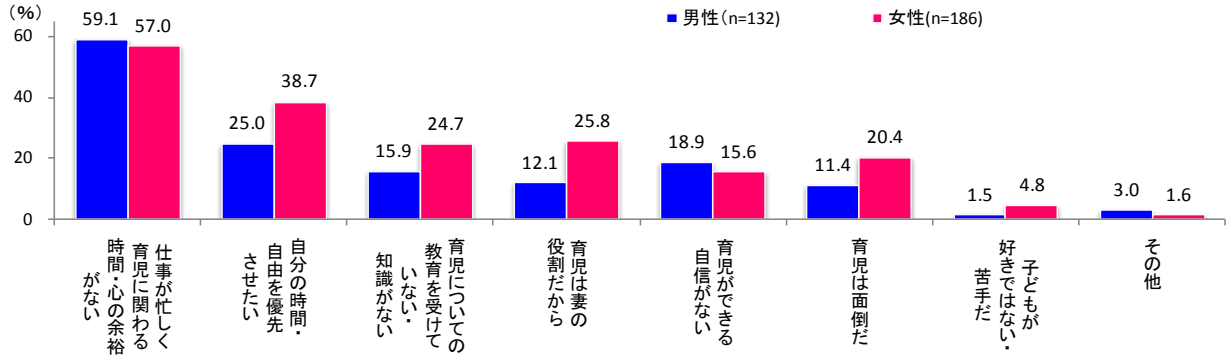
子どものいる既婚者に、男性は自分自身、女性は自分の夫が育児にどのくらい関わっていたと思うかたずねたところ、「積極的」「どちらかといえば積極的」と回答した人が男性は 75.3%、女性は 67.5%と多数を占めました（図表 11-4）。多くの夫は積極的に育児に関わっており、妻もそれを評価しているようです。また、「消極的」「どちらかといえば消極的」と回答した人の理由は、「仕事が忙しく育児に関わる時間・心の余裕がないから」が男女ともにおよそ６割と最多でした（図表 11-5）。

「男性の家事・育児への参加を促すために必要なものは何ですか？」という質問に対して、最も多かった回答は、男性は「長時間労働の是正」、女性は「男性自身の『家事・育児に積極的に関わる』という意識」でした（図表 11-6）。「柔軟な働き方（在宅勤務、フレックスタイム等）の推進・普及」や「職場の理解」を選んだ人も多く、育児に消極的な理由と併せて考えると、夫婦が協力して子育てをするには、夫の働き方や職場のあり方を見直す必要があるようです。

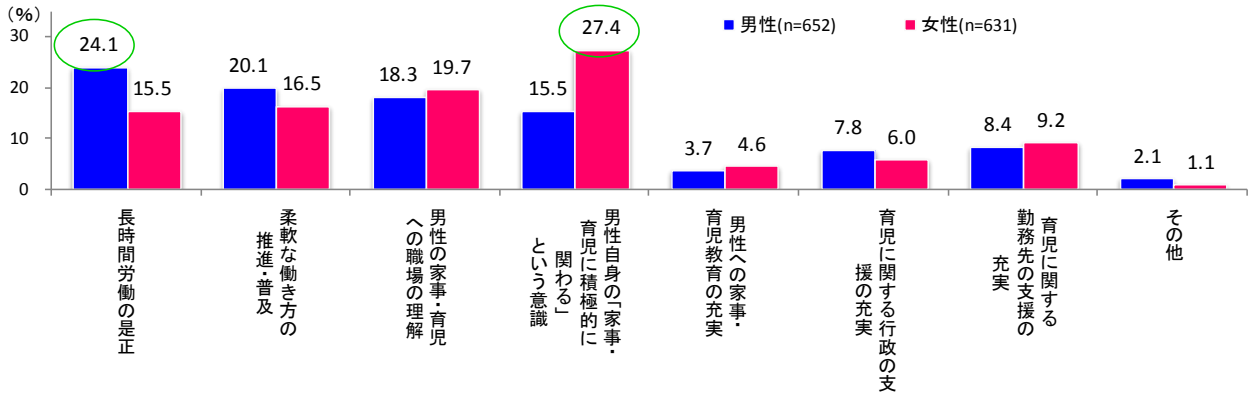
図表 11-4　子育てにどのくらい関わったか（子どものいる既婚者。男性は自分自身、女性は配偶者について）



図表 11-5　育児に消極的な理由（子どものいる既婚者。男性は自分自身、女性は配偶者について）



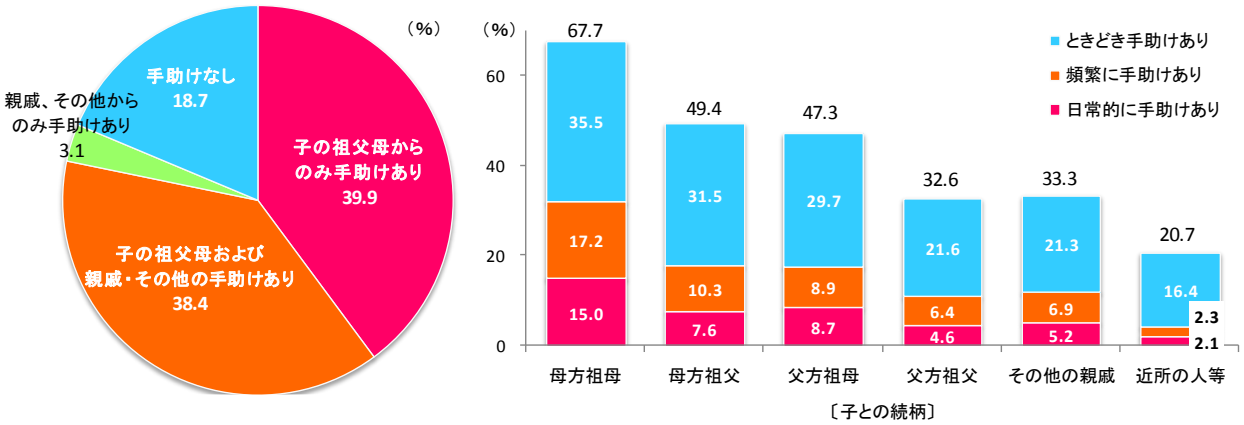
図表 11-6　男性がもっと家事・育児に参加するには？（子どものいる既婚者。男女別）



② 祖父母や親戚・その他の子育てサポート

子どもが０歳～小学校３年生までの間に、「以下の方から、子どもの世話や送り迎え、家事の手伝い等金銭以外の子育ての手助けはありましたか」と尋ねました。第１子が現在０～９歳の人の回答結果が図表 11-7 です。８割弱は祖父母からの手助けがあり、そのうち半分は親戚や近所の人等の手助けも受けています。お祖母ちゃんは母方で約７割、父方で約５割が手助けをしています。また最近、「イクジイ」という言葉が聞かれますが、お祖父ちゃんも母方で約５割、父方で約３割が子育てのサポートをしているとの回答でした。親戚や近所の人のサポートがあると回答した人も２～３割あり、いろいろな人にサポートされながら子育てをしている姿がうかがえました。

図表 11-7　子の祖父母、親戚、その他の人からの子育ての手助けがあるか（第１子が０～９歳の人（n=873））



③子育ての情報源と悩み事の相談相手 —— 男女差がはっきりと

子育ての情報源と悩み事の相談相手について尋ねたところ、男女差がはっきりと現れました。父親の場合、最も頼りにした情報源、相談相手のどちらも「配偶者」が突出しています。また「子育ての情報収集・悩み事の相談はしていない」との回答が 20～40 代すべてでトップ３に入りました。一方、母親の子育ての情報源は「自分の親」「ママ友」「インターネット」が多く、40 代の３位でようやく「配偶者」が登場します。また子育ての悩みの相談相手も 20 代、30 代では「自分の親」、40 代ではそれに加えて「ママ友」が「配偶者」よりも上に来ています。

①で紹介したように父親が子育てに積極的に参加しているという回答は多かったのですが、この回答結果からは子育てについては「妻任せ」「妻が頼り」という父親と「夫よりも自分の親やママ友が頼り」という母親の姿がみえてきます。

図表 11-8　子育てで最も頼りになった情報源、悩み事の相談相手（子どものいる既婚者）

【子育ての情報収集で最も頼りになった人・もの（1つ）】

	男性 20代 (n=155)	男性 30代 (n=302)	男性 40代 (n=195)	女性 20代 (n=152)	女性 30代 (n=296)	女性 40代 (n=183)
1位	配偶者 45.8%	配偶者 49.0%	配偶者 38.5%	自分の親 37.5%	自分の親 25.7%	ママ友 27.3%
2位	自分の親 18.7%	自分の親 11.9%	子育ての情報収集はしていない 14.9%	インターネット 16.4%	ママ友 24.7%	自分の親 24.6%
3位	子育ての情報収集はしていない 9.0%	子育ての情報収集はしていない 9.3%	自分の親 13.3%	ママ友 13.2%	インターネット 17.9%	配偶者 14.8%

【子育ての悩み事相談で最も頼りになった人（1つ）】

	男性 20代 (n=155)	男性 30代 (n=302)	男性 40代 (n=195)	女性 20代 (n=152)	女性 30代 (n=296)	女性 40代 (n=183)
1位	配偶者 41.9%	配偶者 46.7%	配偶者 36.4%	自分の親 42.1%	自分の親 28.0%	ママ友 25.7%
2位	自分の親 20.6%	子育ての悩み事の相談はしない 15.2%	子育ての悩み事の相談はしない 24.6%	配偶者 19.7%	配偶者 24.7%	自分の親 25.1%
3位	子育ての悩み事の相談はしない 16.1%	自分の親 12.6%	自分の親 11.8%	ママ友 10.5%	ママ友 16.6%	配偶者 23.0%

12. 子どもと教育

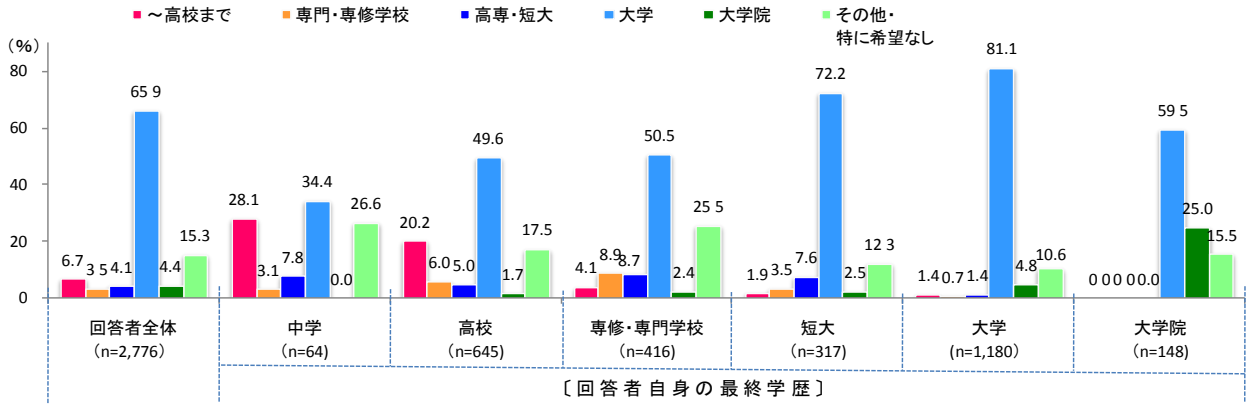
○ 自分の子どもに望む学歴は３人に２人が「大学」。回答者本人の学歴が高いほど、子どもにも高い学歴を望む
○ 大学卒業までにかかる教育費総額 —— 予想は平均 1,926 万円。実際に子どもがいる人の予想は 1,637 万円
○ 子どもの教育資金の準備をしている人は 76%。うち９割近くは子どもの出生前～誕生時に準備をスタート。“子どもが小さい時期からコツコツと”が主流
○ 教育資金の２大準備手段は「子ども保険・学資保険」「預貯金」

（１）自分の子どもに望む学歴

既に子どものいる人と、子どもが欲しいと回答した人に、自分の子どもに望む学歴を尋ねたところ、回答者全体では「大学」が 65.9%と圧倒的に多数でした。大学への進学率が 50%を超える現在では「大学が当たり前」という意識になっているのでしょう。

回答者の学歴別にみてみると、本人の学歴が高くなるほど子どもにも高い学歴を望む傾向がみられました。特に自分自身が大学を卒業している人の８割は自分の子どもにも大学への進学を望んでいます。

図表 12-1　自分の子どもに望む学歴（回答者の学歴別）



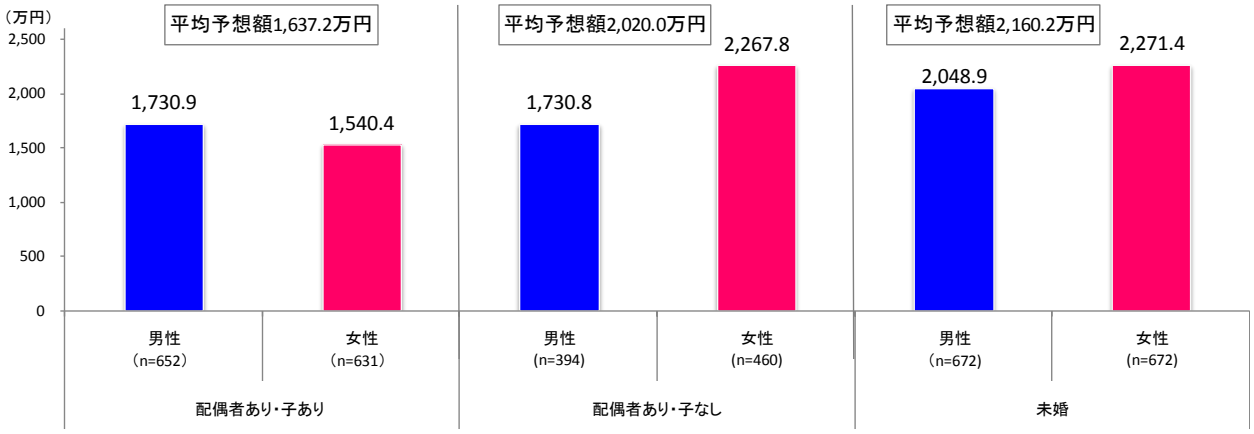
（２）小学校から大学卒業までの教育費

「小学校から大学卒業までにかかる教育費（学費、学習塾代等）はいくらかかると思いますか」と尋ねたところ、回答者全員が予想した金額の平均は 1,926.3 万円でした。

これを配偶者の有無別、子どもの有無別にみてみると、既婚者よりも未婚者の方が、子どものいる人よりもいない人の方が、教育にかかる費用を多めに見積もる傾向がありました。また、子どもがいない人では女性のほうが男性より多めに見積もる傾向がみられましたが、子どもがいる場合は女性のほうが少なめに予想しています。

私立か公立か、大学はどの学部に進学するか、自宅通学か下宿かなどによって教育費にも大きな幅ができますが、結婚して子どもが生まれると、ある程度選択肢が絞られ、特に母親の場合、現実的な金額に落ち着いてくるのかもしれません。

図表 12-2　小学校から大学卒業までにかかる教育費の予想金額（男女別、配偶者の有無別、子どもの有無別）



（３）教育資金の準備

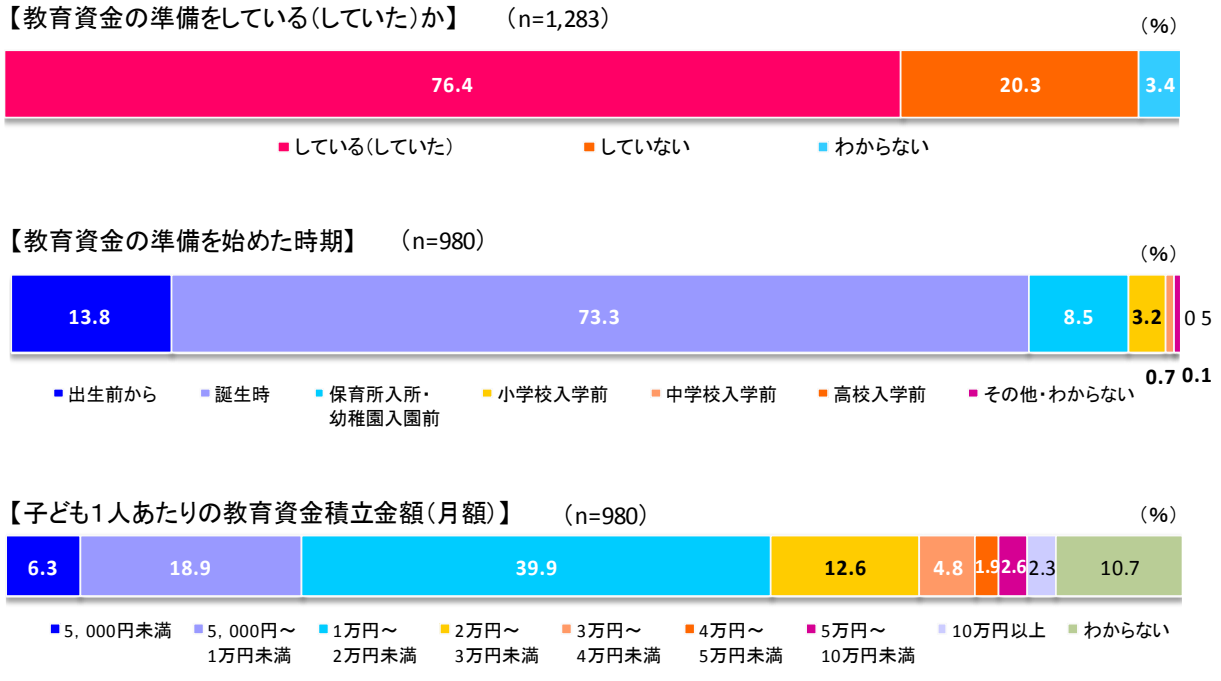
① 教育資金の準備は、“子どもが小さい時期からコツコツと”

大学卒業までに 1,500～2,000 万円近くかかると予想した教育資金。結婚をし、子どものいる人に教育資金の準備をしているかを尋ねたところ、全体の 76.4%の人が「準備をしている（していた）」と回答しています。

また、準備を始めた時期は、子どもの「誕生時」と回答した人が 73.3%と最も多く、出生前に始めた人も 13.8%いました。保育所や幼稚園に入る前には９割以上の人が教育資金の準備をスタートさせています。

子ども１人あたりの教育資金の積立金額（月額）は、２万円未満が約 65%。アンケートの結果からは“子どもが小さい時期からコツコツと”というお父さん、お母さんの姿がみてとれました。

図表 12-3　教育資金の準備の有無、準備開始時期、積立金額（月額）



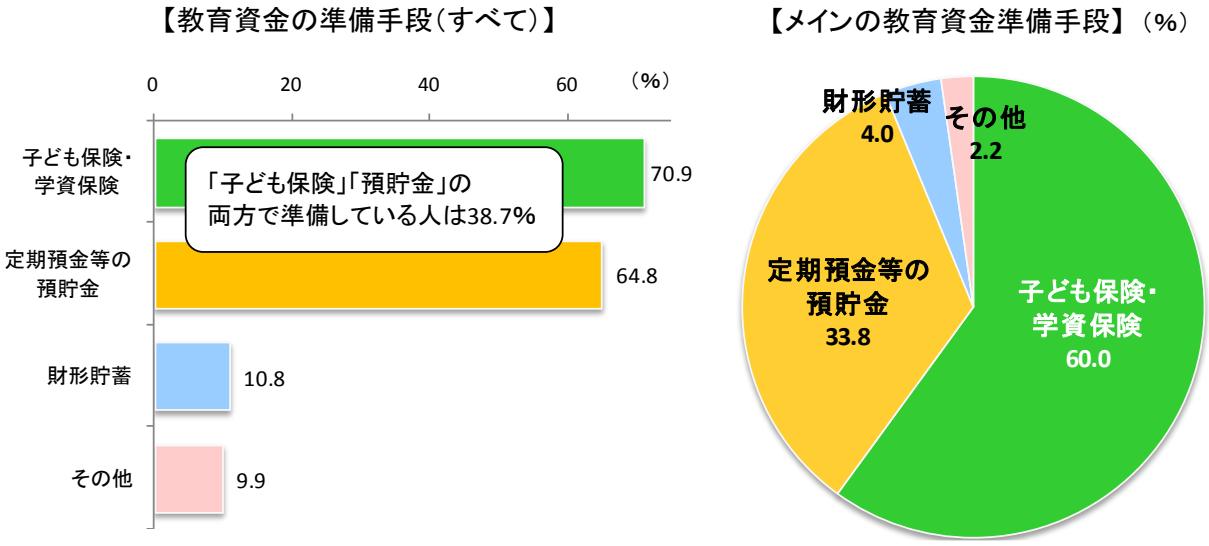
② 準備手段は「子ども保険・学資保険」「定期預金等の預貯金」が主流

子どもの教育資金の準備をしている人の約７割が準備手段として「子ども保険・学資保険」を利用していました（図表 12-4）。「定期預金等の預貯金」も約 65%の人が利用しています。「子ども保険・学資保険」と「預貯金」の両方で教育資金の準備をしている人も 38.7%いました。

また、教育資金の準備のメイン手段を１つだけ選んでもらったところ、「子ども保険・学資保険」が６割を占めました。子ども保険と預貯金でメインの準備手段の９割以上になります。

「子ども保険・学資保険」は、目的・目標をはっきりさせて貯められること、解約や取り崩しがしにくく着実に貯められること、貯蓄以外に子どものけがや病気、親の万が一に備えることもできることなどが好まれているものと考えられます。

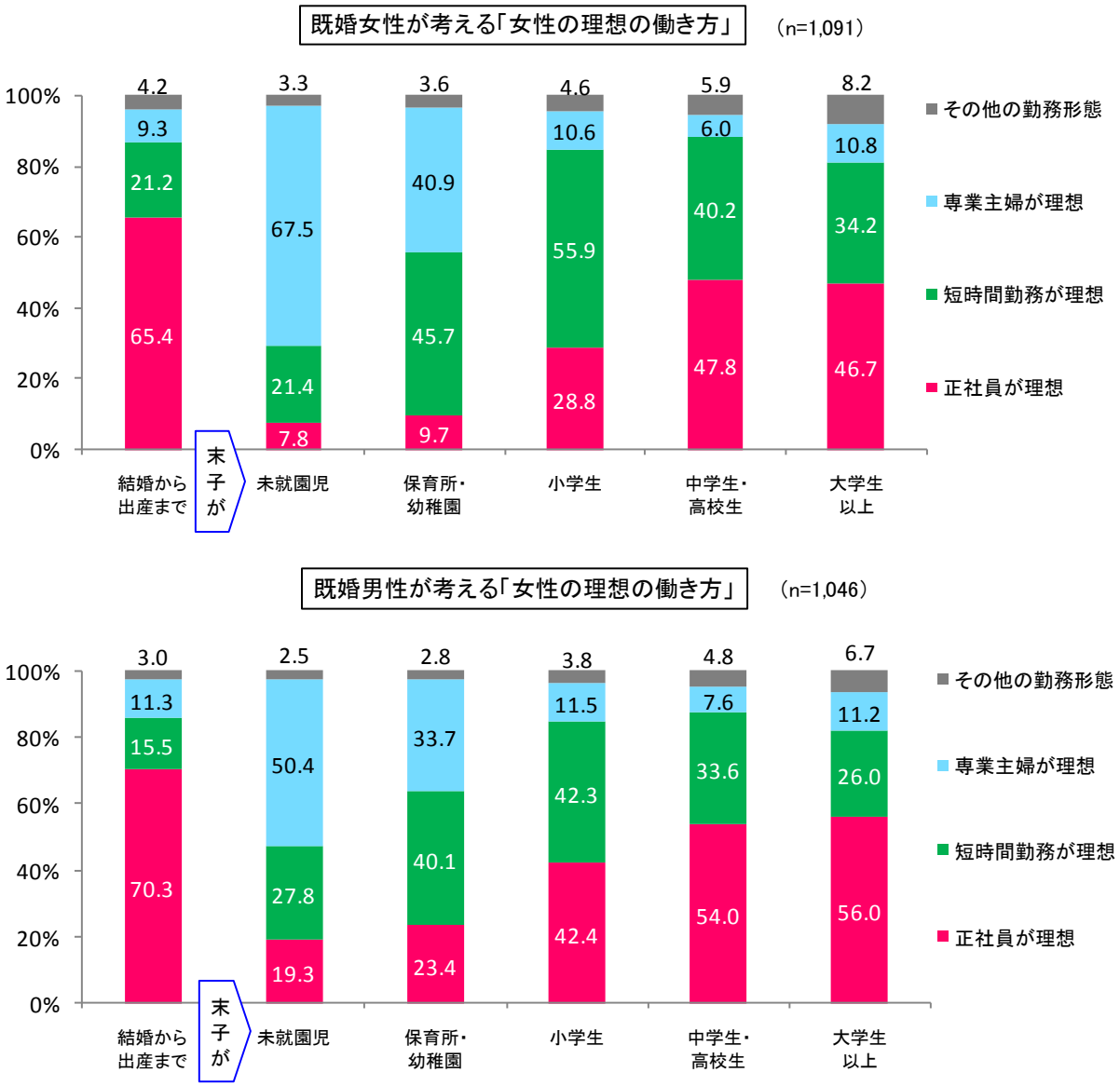
図表 12-4　教育資金の準備手段（n=980）



13. 女性のライフステージにおける理想の働き方

○ 妻自身が思うより、夫は妻に「正社員で働いてほしい」
○ 妻の理想 —— 子どもが入学前は「専業主婦」、子どもが小学校に上がったら「できるだけ外で働きたい」

ライフステージに応じた「女性の理想の働き方」を既婚の男女に尋ねたところ、全ステージを通じて、男性は「女性は正社員として働くのが理想」とする割合が女性より高い結果となりました。また、子どもを産んでから末子が小学校に上がる前のステージでは、女性は「専業主婦を理想」とする割合が男性より高く、逆に小学校入学後のステージでは、「短時間勤務を理想」とする女性の割合が大きく上昇し、「専業主婦を理想」とする割合は男性を下回りました。

女性は、「子どもが幼少の頃は子育てや子どもと接する時間を多く持ちたい、そして、子どもがある程度大きくなってきたら、外に出て働きたい」と考えるケースが多いようです。

図表 13-1　ライフステージに応じた「女性の理想の働き方」（既婚の男女）